

〔共同研究〕

## 『仙芥集』翻刻⑥

中世東国仏教研究会

はじめに

『仙芥集』は、中世鎌倉の地で精力的な受法活動を行った真言僧定仙（二二三三～一三〇二）の受法記録を集成したもので、その写本は国宝称名寺聖教（称名寺所蔵・神奈川県立金沢文庫管理）にのみ伝存していると考えられる。目録上で全三十二部（一三函―一―一～三二）という大部のテキスト群である。当研究会ではその写本を底本として翻刻を行っている。

昨年度までの中間報告で一三函―一―一から二七までの翻刻を終えており、本年度はその続きである二八～三二までの五冊分の翻刻を終え、これをもって『仙芥集』の全冊翻刻を完了した。

本年度の研究會参加メンバーは、代表・大八木隆祥（解題、二九翻刻）、山口史恭、中保之（二八・二九・三〇・三一・三二翻刻）、坂本眞観、牛久智充、新井弘賢、青木亮敬である。

最後に、保管資料である国宝称名寺聖教『仙芥集』の翻刻・掲載をご許可くださいました神奈川県立金沢文庫ご当局に感謝申し上げます。

## 解題

今回翻刻したテキストは一三函——二八〇三二の五本である。書誌データを『称名寺聖教目録』に基づき挙げ、その内容を概説する。

### ①一三函一——二八

〔外題〕 仙芥集 御遺告聞書 〔角書〕 (表紙中央) 小野 〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 釵阿 〔装丁〕 綴葉 (一綴・横半帳) 〔紙数〕 八紙一六丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・四×二二・〇 〔行格〕 一〇〇一三行 〔加點等〕 合点・訓点あり 〔保存状態〕 修理済 〔識語〕 (表紙右上) 一交了 (奥) 建治四年正月廿六日記之了、金剛仏子定五十六才云々

空海による末学への遺言とされる『二十五箇条御遺告』<sup>①</sup>についての註釈である。ただし、逐語釈ではなく要文・要語のみに対し注釈されたものとなっている。注釈者については、表紙に「御遺告聞書〈小野〉」とあり、聞書本文の末尾である十一丁表の一行目には「已上信珠律師説也」とあるので、小野流に属する信珠律師と称される人物の口説を記したものであることがわかるが、信珠律師については詳らかでない。奥書には「建治四年正月廿六日記之了」という日付以外の情報はないが、称名寺聖教の他の定仙関連史料を觀てみると、建治元年 (一二七五) より弘安八年 (一二八五) 頃まで定仙と増瑜の交流の跡が確認でき、この期間、増瑜所持の勸修寺流聖教を頻繁に借覧・書写・受法していたことが窺える。また、本冊を記す直前の建治二年 (一二七六) 十二月にも増瑜所持の勸修寺流真慶方の聖教を書写していることも確認できた。よって、本

冊についても増瑜からの勸修寺流伝授の一環で記されたものであると考えられる。もしそうであるとすれば、本文中の「仰せに云く」は信珠律師の説、「私に云く」は増瑜の説と考えるべきか。

② 二三函一—二九

〔外題〕仙芥集汀行事口傳 〔角書〕(表紙中央) 小野 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉(二綴・横半帳) 〔紙数〕三三二紙六四丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕一四・三×三二・四 〔行格〕九  
く 一一行 〔加點等〕合點・訓點・挿図・壇図 〔保存状態〕修理済 〔識語〕(表紙右上) 一交了 (二  
オ) 正応二年十月十日記之／定仙／御判 (三八ウ) 正応二年九月廿四日勤行時記之／定仙／御判(四一  
ウ) 永仁二年九月十六日記之／常陸法印説之／定仙記之 (奥) 書本云、永仁二年九月廿六日書写之云々、

表紙に「灌頂行事口伝〈小野〉」とあり、本文中に「良勝流」「行海流」とあることから勸修寺流の伝法灌頂についての口伝である。定仙は大藏卿阿闍梨増瑜(二二一九)から受法した寛典方(良勝方末、榮然方(良勝方末)、真慶方(良弘・行海末)を中心に、願行房靈静(二二一五—二二九五)から榮然方、裔位(生没不詳)から真慶方、常陸法印定宣(生没不詳)から榮然方を受法している。本書の四十一丁裏には「永仁二年(二二九四)九月十八日記之 常陸法印説也 定仙記之」とあることから定宣の説を中心に行っていると思われるが、本文中には「常陸法印云く」の他にも「卿阿闍梨(増瑜)行事には」、「願上人(靈静)の説には」とあることから、勸修寺流を受法した諸師の口伝をまとめたものであることがわかる。また所々に「醍醐の様に」「醍醐には」など醍醐の法流(主に三宝院流か)との比較も記されている。この他「若宮僧正御房、若宮にて授けありし時は」など、当時の鎌倉の地における勸修寺流の灌頂の実際に関する記述もあり

興味深い。また、四十二丁からは弘安六年三月六日に定仙の住坊である釈迦堂で行われた灌頂の記録がわずかながら記されており、当時の釈迦堂の規模を窺い知ることができる貴重な史料といえる。

③ 二三函 一一三〇

〔外題〕 仙芥集 〔角書〕 金寶鈔聞書／妙鈔聞書／玄秘鈔聞書／汀護摩菩提心論事 〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 鈞阿 〔装丁〕 綴葉（一綴・横半帳） 〔紙数〕 八紙一六丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・五×二・七 〔行格〕 八〇一二行 〔加点等〕 梵字・合点・訓点 〔保存状態〕 修理済 〔識語〕（表紙右上） 一交了 （奥） 建治三年八月七日伝受、同八日夜記之了、

表紙には「金寶鈔聞事 妙鈔聞事 玄秘鈔聞事 灌頂護摩菩提心論事」とあり、その通りの順と内容であるが、これは十丁表の「建治四年二月十日夜記之了 且玄秘抄金寶抄之後承之書人也 定仙」という識語までであり、続いて十丁裏より「秘藏金寶集」の口伝が記され十四丁裏の「建治三年八月七日伝受 同八日夜記之了」という奥書をもっておわる。日付が前後入れ替わっているのは編者（定仙の弟子の智照と考えられる<sup>4</sup>）が編纂する際の都合か。よって、まず建治三年（一二七七）八月七日に『秘藏金寶集』を受法した上で翌日その口決が記され、次に『金寶鈔』『妙鈔』『玄秘鈔』『灌頂護摩』『菩提心論大事』について伝授を受け、その口決が建治四年（一二七八）二月十日に記されたということである。受法した聖教から三宝院流であることは明らかであるが、誰から受けたものかは判然としない。本文中にはところどころ「仰せに云く」と記されているのみである。定仙が三宝院流を受法した五師の内、この時期に確実な交流が確認できるのは、意教流の仏性房義能（生没不詳）と、三宝院流系統の四つの流を相承する了一房公然（一二五

二一)の二師である。<sup>(5)</sup>この内のどちらかの口伝を記したのか。

## ④ 一三函 一—三二

〔外題〕(仙芥集) 〔本文残存状態〕前欠 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉(一綴・横半帳) 〔紙数〕三紙六丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕一四・五×二一・三 〔行格〕六〇—一行 〔加点等〕梵字・合点・訓点 〔保存状態〕修理済 〔備考〕裏表紙に「撰十八帖」とあり。(内容)付不動法記之／付台藏次第記之／大法秘法事

前欠(表紙欠)である。本文の見出しには「付不動法記之」「付胎藏次第記之」「大法秘法事」とある。奥書が無いので成立の状況は不明であるが、わずか五丁表裏の中に「了(一)上人云」「了(二)上人説也」と九ヶ所記されていることから、本冊全体が一房公然の口伝に拠っていることがわかる。公然は定済から憲深方、頼賢から三宝院御流と意教流、経寛から遮那院流という、三宝院流の末流四流を相承している人物である。「大法秘法事」の段の末には「私に云く」と断って「卿阿闍梨云」と大蔵卿阿闍梨増瑜の伝を挙げる箇所が見られるが、これは定仙自身が増瑜から受けた勸修寺流の伝を参考のために挙げたに過ぎない。

## ⑤ 一三函 一—三二

〔外題〕(仙芥集) 〔本文残存状態〕零葉 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕もと綴葉(一綴・横半帳) 〔紙数〕一紙 〔料紙〕楮紙 〔法量〕一四・三×二一・二 〔行格〕一—行 〔加点等〕訓点あり 〔保存状

態〕虫損あり

本冊は零葉であり、その内容は『仙芥集』翻刻⑤収録の一三函一―二六『仙芥集 hōma 要抄〈行海〉』の十三丁裏十一行目から十五丁表二行目二文字目までと全同である。同じく『仙芥集』翻刻⑤収録の一三函一―二七『仙芥集 hōma 私記〈行海〉』は、その解題でも記したとおり、一三函一―二六の前半と全同であり推敲の跡も見られることから草稿本にあたと考えられる。本冊も一三函一―二七同様、一三函一―二六の草稿本である可能性が高い。また、本冊に相当する部分は一三函一―二七に無いことから、本冊がもともと一三函一―二七の一部であった可能性もある。『仙芥集』の成立を考える上で貴重な資料である。

以上、全三十二冊の翻刻を終わる（ただし草稿本二点を含むので、『仙芥集』の規模は全三十冊である）。

#### 【参考文献】

『称名寺聖教目録』全三巻、文化庁文化財部美術学芸課（二〇〇六年）

『仙芥集』翻刻

- 中世東国仏教研究会 『仙芥集』翻刻① 『綜佛年報』三六（二〇一四年）
- 中世東国仏教研究会 『仙芥集』翻刻② 『綜佛年報』三七（二〇一五年）
- 中世東国仏教研究会 『仙芥集』翻刻③ 『綜佛年報』三八（二〇一六年）
- 中世東国仏教研究会 『仙芥集』翻刻④ 『綜佛年報』四〇（二〇一八年）
- 中世東国仏教研究会 『仙芥集』翻刻⑤ 『綜佛年報』四一（二〇一九年）

【註】

- (1) 現在では空海の真撰ではなく後世（十世紀頃か）の仮託と考えられている。武内孝善「『御遺告』の成立過程について」『印仏研』四三―二（一九九五）参照。
- (2) 定仙が受法した勸修寺流については、大八木隆祥「定仙の受法について② 勸修寺流の受法」『綜佛年報』三七（二〇一五）参照。
- (3) 「若宮僧正御房」信忠（一二六二―一三三三）勸修寺勝信灌頂資。勸修寺十一世長史・道宝より三論・密教を受ける。勸修寺第十三世長史。正応年中、鎌倉若宮別当。正安二年、勸修寺慈尊院六世・栄海より伝法灌頂を受ける。同年、東寺長者、延慶三年、東大寺別当。
- (4) 『仙芥集』翻刻④一三函一―一一の解題参照。
- (5) 定仙が受法した三宝院流については、大八木隆祥「定仙の受法について③ 三宝院流の受法」『綜佛年報』四一（二〇一九）参照。

『仙芥集』翻刻

〔凡例〕

- 一、原則として新字に統一して翻刻する。
- 一、合字は新字による一般的表記に改める。漢数字の略字についても同様である。
- 一、繰り返し記号について、漢字は「々」、仮名は「々」に統一する。
- 一、梵字はローマナイズして記す。
- 一、脱字の挿入箇所に記載された小さい丸は○で表記する。その傍に記載されている挿入する文字については、○の下の（ ）中に記す。
- 一、文字の接続を示す「―」は略す。
- 一、送り仮名に用いる略字・合字は読み通りの表記に改める。(例) シテ、トモ、コト
- 一、声点は、声点が付く文字の後に四声名を（ ）で括る。濁音の場合は四声名の後に「濁」と記す。例…  
平声の場合↓(平)、上声の濁音の場合↓(上濁)



①【二三函一一二八】

〔表紙〕

一交了

御遺告聞書小野

仙芥集

〔表紙裏〕

〔空白〕

〔本文〕

御遺告聞書

烏卯ウツ 日本名也取日月  
名日本國

日中在烏一 月中在卯一云

宮内卿律師説也

大唐曲成コウ（平濁）仰云日記義也

第一条

√佐伯サエキ氏征敵毛アキ（去濁）一 ヲ

仰云国敵也ウチタマハシ被班土ハシヲ

√阿刀アト氏人也 √大足オオタリ

√入京シツケイ（平）入ル京へ也 √石瀨イワフチ

√從直チヨク講味酒カウアマサケノ淨成ノキヨ

私云直講者時ノ文ノ達者ニシテ

講文一 歟仰云爾也

√岡田オカダ博士等私云此博士ハ

信仏法歟若爾經史

者仏經歟仰云不爾一

俗典也經史亦俗事也

如此雖学俗典專信

仏法一云事也

√利弼リヒツ私云利益義歟

√此ノ風已ニ止メテ

√近土者ハ俗ハ信仏法故也八戒近土ノ義也

√遠然エンゼントシテ √締留エンリウトシテ

一才

一ウ

√崎<sup>サキ</sup>√寂<sup>セキ</sup>暫<sup>サン</sup>ス<sup>ス</sup>參<sup>マシ</sup>ノ字<sup>ジ</sup>

√大<sup>ダイ</sup>瀧<sup>タケ</sup>嶽<sup>ダケ</sup>√室<sup>ム</sup>生<sup>ロト</sup>門<sup>ト</sup>

√厥<sup>ソノ</sup>苦<sup>ク</sup>節<sup>シヒ</sup>ハ也<sup>ハ</sup>槓<sup>マキ</sup>ノ尾<sup>ヲ</sup>

私云大師年々ケテノ御出家

歟仰云不爾十七年歟

委不覺二十年者引合

前後アソワス也<sup>ト云</sup>

有人云十七出家二十二登壇<sup>云</sup>

√高<sup>タケ</sup>市<sup>チ</sup>郡<sup>ノ</sup>√久<sup>ク</sup>米<sup>メ</sup>ノ√解<sup>ト</sup>イ<sup>ト</sup>テ<sup>ヒ</sup>緘<sup>ホ</sup>ヲ

√衆<sup>ソウ</sup>情<sup>ジヨウ</sup>有<sup>リ</sup>トモト<sup>ト</sup>滯<sup>ト</sup>リ<sup>ト</sup>無<sup>シ</sup>所<sup>ロ</sup>

√憚<sup>タタ</sup>問<sup>タツ</sup>スルニ私云疏不審多<sup>ト云</sup>

仰云善無畏、持此經一来

日本一無機一故高市

郡ノ東塔ノ柱ノ下埋テ之<sup>一</sup>

待大師也三地菩薩可来<sup>云</sup>

√為<sup>メ</sup>メナリ初<sup>ハジメ</sup>テ学<sup>マカ</sup>習<sup>ヒ</sup>セムカ√天<sup>テン</sup>心<sup>シン</sup>

殷<sup>イン</sup>勤<sup>キン</sup>ニシテ戴<sup>イ</sup>テ勅<sup>トク</sup>ヲ渡<sup>ワタ</sup>海<sup>カイ</sup>セシニ

天<sup>テン</sup>心<sup>シン</sup>私云国王也√無<sup>ム</sup>價<sup>バ</sup>一<sup>一</sup>

前々ノ□至<sup>キ</sup>楊<sup>ヨウ</sup>蘇<sup>ソ</sup>州<sup>シュウ</sup>ニ

大師ハ到<sup>カ</sup>衡<sup>コウ</sup>一也<sup>ト云</sup>

√賀<sup>カ</sup>能<sup>ネ</sup>トノウニ様也宮内

卿<sup>ケイ</sup>律<sup>リツ</sup>師<sup>シ</sup>ノ云本名葛野

入唐時改賀能ト呈<sup>テイ</sup>呈<sup>テイ</sup>ス

√切<sup>キ</sup>ナルコトウレ<sup>レ</sup>愁<sup>ウレ</sup>ヘ之今也

√筆<sup>ツ</sup>主<sup>カサ</sup>ナリ<sup>ナリ</sup>呈<sup>テイ</sup>書<sup>ショ</sup>√力<sup>リ</sup>使<sup>ヨク</sup>

√好<sup>ヨ</sup>シ問<sup>モン</sup>ニ十三烟<sup>エン</sup>√存<sup>ゾ</sup>門<sup>モン</sup>ノ勅<sup>トク</sup>使<sup>シ</sup>

√罔<sup>ナ</sup>シ極<sup>キョク</sup>マリ√給<sup>マ</sup>ハルイカクノ使<sup>シ</sup>

√鞍<sup>クラ</sup>√退<sup>カ</sup>迹<sup>シ</sup>√達<sup>タツ</sup>向<sup>カウ</sup>者<sup>モノ</sup>

√電<sup>イ</sup>ノ時<sup>トキ</sup>七月六月四月三説也

√橘<sup>キツ</sup>丈夫<sup>ソウブ</sup>大師同学人歟

√十<sup>ジュウ</sup>禅<sup>ゼン</sup>師<sup>シ</sup>供<sup>キョウ</sup>僧<sup>ソウ</sup>六<sup>ロク</sup>人<sup>ニン</sup>三<sup>サン</sup>網<sup>マウ</sup>

三人修行一人合之云十

禅師<sup>一</sup>

√唐<sup>タウ</sup>梵<sup>ハン</sup>合<sup>カ</sup>存<sup>ソン</sup>セリ仰云梵漢並<sup>ナラ</sup>フ之<sup>ラ</sup>

√歸<sup>キ</sup>朝<sup>テウ</sup>時<sup>ジ</sup>死<sup>シ</sup>王<sup>オウ</sup>桓<sup>ケン</sup>武<sup>ブ</sup>天<sup>テン</sup>皇<sup>オウ</sup>也

√論<sup>ロン</sup>争<sup>ショウ</sup>ス首<sup>シュ</sup>尾<sup>ビ</sup>ヲ√注<sup>チュ</sup>繫<sup>ケイ</sup>シテ

トクメツナイテ√四<sup>シ</sup>元<sup>ゲン</sup>(平濁)者四海義也

√濟<sup>セイ</sup>(上濁)紹<sup>ショウ</sup>(平濁)√真<sup>シン</sup>(平)呼也

二才

三才

√敢難シ覽ル者一具ニ注シテ言ハノ

心ヲ奏聞スルニ内裏ニ少時之

間勅使和氣ノ真繩

御弊、種々ノ色物ヲ供シ

奉ル龍王ニ可訓√特(入)進試

也名√待コト汝ニ既尚シ

已ニ果シテ来レリ我道東トウシナントス

東(ハ)伝義也トスル√吳愷纂ニ云

也父名√両三般√珍賀夜夢

仰云夢ニ四天来テ降伏ス別

伝在之

√表ヲモテ請ケテ紀伊国ノ南山

√絶(入濁)遙ニシテ遠阻テタリ人氣ヲ

√狎テ√南山高野ハイトノ

コヲリナリ√在明神衛護

仰云大師入下トキ高野山一山ノ

フモトニヲキナアヘリ大師

問云何処ニ可興仏法一老

翁ノ云ク此上ノ山ニ常紫

三ウ

雲立ツ見下ヘ之ヲサキニ立テ

山ヲハラヒテ教之ニ高野ヲ

ハリミチト云ハ此ヨリ起レリ

払ヒミチ也此時ニ木上ニ

唐土ニテ投下シ日本ニ三鉗アリ三鉗松也

為見此三鉗一日本ニ遊行ス

其□処々ニ興立スヲキナノ

云ク我ヲハ高野ノ明神ト申ス

ニウノ明神ノヲトクナリニウハ

□子我ハヲトク也レウシニテ

ユキアフ高野一万丁ヲ

奉ルイサナキイサナミヨリ

エタテマツル也然而大師ニ

奉ル也ト云√為造大塔ノ

中尊一切ニ木一中尊ノ頭ハ

在木中一取之ニ為ス頭ト

√高野鎮壇之時為ニ埋ムカ輪

羯磨一地ヲホル地中ニ前ヨリ

在リ之ニ大師問下ニ高野明神ニ

四オ

四ウ

五オ

答云釈迦菩薩ノ入定之時ノ

鎮壇ノ輪羯磨也ト云

金堂御影堂大塔ハ

鎮壇ノ上ニアリ云

ソハニ丹生ノ明神高野

明神立下ヘリ又アマノニモ

ニウノ明神ハ住シ給ヘリ

√奏シ辞スレトモ不ス允レツカフルゴト√在ヨクヤケニ公一

雖云ト万事ニ無ト違トイマ

√必一ヒ往テ看ル√名曰フ丹生

津姫ノ命ツツヒメミコト一十許町キヨ

√即時ニ傷害ス仰云大師

以前ハイケニヘヨメシク也

√託シテ巫祝曰√食シケシクニスヘラ国皇ノ命ミコト

イサナキイサナミ也

√限ルヤマト日本河ヲ√如今所ノ有

見開田三許町、名常ノ

庄ト是ナリ√吾カ生ナリ(平)期キ(去)

√仁等好住ナニタチコノミシテ√吾レ擬ス入

滅セムコトヲ者小野本云入定ト云

√忿イソク永擬キ即世セコト也

即世者早世也√非五千人

仰云天台等ニ云事也

吾不ト知云私云善見論ノ

五千年也

第二段

興キキウ(平)然ナルコト√他有眼カレ(上濁)青一自在(上)

融通キキウス仰云不知一覺禪房抄物アリ此等事

√益マスアランヤ此大徳ニ√処分封納シテ

愚情ノ師々私云ヲロカナン師失ヲ人ニイフヘキ也

√菩提実シツノ数珠√給シ勅ス

加以シカノミナラス賞賜ハルクサガカス箒々カスガ

以テ先日誤リラ

第三条

弘福寺タチハナ寺ノキタウラニアリ

飛鳥淨三原アスカキヨミノ宮ノ御宇、

√是依カヨヒシテ少僧通詣ニ高野一

六ウ

五ウ

六オ

所<sup>ノ</sup>給<sup>ミ</sup>宿所<sup>ノ</sup>而已<sup>ニ</sup>√非<sup>スル</sup>為<sup>ニ</sup>

己<sup>カ</sup>宿所<sup>ノ</sup>√嚴<sup>イツクシク</sup>弘<sup>マ</sup>法<sup>フ</sup>治<sup>チ</sup>

第四条

弥<sup>ミ</sup>皇<sup>ミ</sup>寺<sup>テ</sup>ヲ<sup>タ</sup>キ也<sup>キ</sup>東<sup>トウ</sup>山<sup>サン</sup>在<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>宿<sup>ヤク</sup>当<sup>トウ</sup>

第五条

吾<sup>ワ</sup>列<sup>レツ</sup>御<sup>ミ</sup>号<sup>ゴウ</sup>一<sup>ニ</sup>仰<sup>オウ</sup>云<sup>ユ</sup>此<sup>コノ</sup>ハ<sup>ニ</sup>參<sup>サン</sup>詣<sup>ギ</sup>

時<sup>トキ</sup>可<sup>カ</sup>唱<sup>ネウ</sup>一<sup>ニ</sup>名<sup>ナ</sup>号<sup>ゴウ</sup>一<sup>ニ</sup>故<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>√<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>

第六条

可<sup>カ</sup>如<sup>ニ</sup>ナル<sup>コト</sup>語<sup>ゴ</sup>先<sup>マ</sup>云<sup>フ</sup>

第七条

每<sup>スベテ</sup>夜<sup>ヤ</sup>現<sup>ゲン</sup>槩<sup>カ</sup>參<sup>サン</sup>字<sup>ジ</sup>同<sup>トウ</sup>也<sup>ナリ</sup>

惟<sup>タラシ</sup>ヒテ<sup>シ</sup>品<sup>シヤ</sup>ヲ<sup>シ</sup>唯<sup>タラシ</sup>ル<sup>ニ</sup>ニ<sup>シ</sup>參<sup>サン</sup>受<sup>ジュ</sup>諸<sup>シヤ</sup>

護<sup>ゴ</sup>法<sup>フ</sup>天<sup>テン</sup>神<sup>シン</sup>法<sup>フ</sup>味<sup>ミ</sup>ヲ<sup>シ</sup>守<sup>ウ</sup>護<sup>ゴ</sup>ス<sup>ヘ</sup>ヘ<sup>キ</sup>

場<sup>バ</sup>等<sup>トウ</sup>者<sup>シヤ</sup>ナ<sup>リ</sup>

違<sup>ヒ</sup>テ<sup>シ</sup>他<sup>タ</sup>事<sup>ジ</sup>ヲ<sup>シ</sup>勿<sup>レ</sup>レ<sup>ト</sup>駐<sup>チ</sup>コト<sup>ト</sup>自<sup>ジ</sup>ラ<sup>ニ</sup>

第八条 構<sup>カマ</sup>カ<sup>マ</sup>ヘ

余<sup>マ</sup>業<sup>ノ</sup>道<sup>ダウ</sup>去<sup>キ</sup>濁<sup>ノ</sup>慈<sup>ジ</sup>南<sup>ナン</sup>院<sup>イン</sup>

東<sup>トウ</sup>南<sup>ナン</sup>院<sup>イン</sup>西<sup>セイ</sup>也<sup>ナリ</sup>√<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>

真<sup>マコト</sup>言<sup>ノ</sup>院<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>√<sup>ト</sup>岫<sup>シユウ</sup>ク<sup>キ</sup>多<sup>タ</sup>羅<sup>ラ</sup>カ<sup>カ</sup>ミ<sup>ミ</sup>也<sup>ナリ</sup>

第九条

螟<sup>メイ</sup>蛉<sup>レイ</sup>似<sup>ニ</sup>我<sup>ガ</sup>ハ<sup>ニ</sup>上<sup>ウ</sup>濁<sup>ノ</sup>チ<sup>チ</sup>也<sup>ナリ</sup>勞<sup>ロウ</sup>リ<sup>リ</sup>養<sup>ヤウ</sup>決<sup>ケツ</sup>リ<sup>リ</sup>心<sup>シン</sup>ラ<sup>ニ</sup>

唯<sup>タラシ</sup>彼<sup>カノ</sup>操<sup>ソウ</sup>行<sup>コウ</sup>

第十条

雖<sup>モトモト</sup>思<sup>シ</sup>先<sup>マ</sup>ヨ<sup>リ</sup>欲<sup>ボク</sup>フ<sup>ニ</sup>奏<sup>ソウ</sup>一<sup>ニ</sup>聞<sup>ケン</sup>座<sup>ザ</sup>

主<sup>ヌシ</sup>号<sup>ゴウ</sup>一<sup>ニ</sup>

第十一条

令<sup>メイ</sup>無<sup>ム</sup>嗽<sup>ソウ</sup>事<sup>ジ</sup>一<sup>ニ</sup>√<sup>ト</sup>分<sup>ワカ</sup>チ<sup>チ</sup>疵<sup>キスラ</sup>一<sup>ニ</sup>

第十二条

仰<sup>オウ</sup>云<sup>ユ</sup>供<sup>キョウ</sup>僧<sup>ソウ</sup>者<sup>シヤ</sup>為<sup>シ</sup>供<sup>キョウ</sup>養<sup>ヤウ</sup>法<sup>フ</sup>一<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>

定<sup>テイ</sup>額<sup>ガク</sup>者<sup>シヤ</sup>為<sup>シ</sup>今<sup>イマ</sup>誦<sup>ソウ</sup>理<sup>リ</sup>趣<sup>ソ</sup>經<sup>キョウ</sup>等<sup>トウ</sup>一<sup>ニ</sup>

人<sup>ヒト</sup>也<sup>ナリ</sup>定<sup>テイ</sup>額<sup>ガク</sup>衆<sup>シュウ</sup>徒<sup>ト</sup>也<sup>ナリ</sup>当<sup>トウ</sup>

時<sup>トキ</sup>供<sup>キョウ</sup>僧<sup>ソウ</sup>定<sup>テイ</sup>額<sup>ガク</sup>二<sup>ニ</sup>流<sup>リウ</sup>也<sup>ナリ</sup>

非<sup>ヒ</sup>トモ<sup>トモ</sup>要<sup>ヤウ</sup>望<sup>ボウ</sup>二<sup>ニ</sup>非<sup>ヒ</sup>トモ<sup>トモ</sup>我<sup>ガ</sup>力<sup>リキ</sup>望<sup>ボウ</sup>二<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>

云<sup>クモ</sup>事<sup>ジ</sup>也<sup>ナリ</sup>

第十三条

元<sup>ゲン</sup>注<sup>シュ</sup>ス<sup>ル</sup>ニ<sup>ニ</sup>官<sup>クワン</sup>符<sup>フ</sup>ニ<sup>ニ</sup>元<sup>ゲン</sup>武<sup>ブ</sup>天<sup>テン</sup>皇<sup>クワン</sup>也<sup>ナリ</sup>庭<sup>テイ</sup>速<sup>ソク</sup>崩<sup>ボウ</sup>

加<sup>カ</sup>以<sup>ニ</sup>未<sup>ミ</sup>入<sup>ニ</sup>レ<sup>ト</sup>庄<sup>シヤウ</sup>田<sup>テン</sup>正<sup>セイ</sup>税<sup>ゼイ</sup>等<sup>トウ</sup>

寺<sup>テ</sup>ノ<sup>ノ</sup>大<sup>ダイ</sup>料<sup>リョウ</sup>小<sup>コ</sup>田<sup>テン</sup>一<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>奏<sup>ソウ</sup>定<sup>テイ</sup>ス<sup>ヘ</sup>シ

七才

七ウ

八才

第十四条

名簿フタ義也 若在殿上

仰ハフキス被省捨テ僧徒ハ者

雖厥ソノ之人一

第十五条

此非凡政マツリコトニカウハ一芳シクスル師資ノ

跡アト一謀コト也

第十六条

試度シタケ件宗分度者

須ク如キハ初ハメ思カシ度タケス東

寺一然而トモ欲フテ不令荒

山家一更ニ改奏シテ官符一

欲フ申シ下サント金剛峯寺一

者也、敢厭東寺一汲ヒカム

第十七条

可シ侍サウラ弥勒慈尊御前一

祇候シ給仕義也

第十九条

呼平ヘイ一一ヘイシノ義事

見ミ微雲管ヨリ々々々者

都卒也

勿レ為ラ後ヲ疎カニスルコト √非ル有コト

基キ琴キム制ノ限リニ者ナリ然而トモ

此家ニハ不スト許ニ云事也基者

平ヒ也内裏ニ在之一ハ平ヒシ平濁ク物也云

蔭フム子孫ソム仰フ云五位種姓物也

第二十條 主託タケノ庭也真綱マツナノ丈夫

頃年シトコロ於レ建立密教

之コトハ言ニ朝夕宛如モ示護

法ノ相一期チキリ

篤アツク在リ肝岫シウニ

私シ云レ建立セト真言ヲ云ハ如ク護ヲ依テ建立トイフ之ナリト云

必有ラム争ソヒ嗾シルコト

第二十二條

腦膽者也 √是故阿闍

梨耶我能欲ハ知道ラ

九才

八ウ

九ウ

住ス己カ私劣ノ心ニ仰云欲ハ

知道一夫レハ住ス己カ心ニ

√以語言一呼許諾ノ言一以五

智五股一加持作人之首一

三般散瓶水一

√注以伝教言一可惜伝法一

私云以テ伝教セヨト云言ラ伝教センニハ

量機ラ可ト惜ム伝法ニ云事也

第二十四条

若簡ワ付法弟子等ノ中一者ハ

涉シ枝々ニ不シテ留大阿闍梨

耶手ニ移テ門々ニ以被レム披

露一不信ノ者ハ√可為淡<sup>アワツル</sup>ニ

道一仰云此法ヲ撰シ授ケ

枝々ノ人ニ不シテ留阿闍梨一

処ニ移テ門々一流布セ<sup>口</sup>不

信ノ者道アワタヘキ故ニ

簡<sup>口ト</sup>之ニ云事也<sup>云</sup>

第二十五条

在<sup>フクヘシ</sup>心肝<sup>セム</sup>敷

已上信珠律師説也<sup>云</sup>

(二行空白)

大師御事

遺告云朝暮懺悔及テ

二十年<sup>文</sup>已上

自五六歳至二十四御年一

举其中間之所行也

依之及于二十年<sup>云</sup>

有人日記

古人伝等意或十八或十九

或二十雖有三説一御出家

年記難一定歟

有人日記云年齒之時多

分年ノ字置上也付

年序時時者十二十之下ニ

置年字筆削定例也<sup>云</sup>

或踏阿波大瀧之嶽或

勤土左室生門崎明

十ウ

十一才

星来蒙法驗<sup>一</sup>其後

住伊豆山自筆大

般若魔事品虚空等<sup>文</sup>

此等御出家後御修行

也<sup>云</sup>

御出家事

御年十八十九二十三說

不同<sup>云</sup>

日記雖広略之以此趣

可見諸伝<sup>云</sup>

(三行空白)

有人云<sup>一</sup>上人御室三合<sup>トテ</sup>

皮籠三ツアリ<sup>一</sup>野月抄

白表紙<sup>二</sup>二二八沢見<sup>ハ</sup><sup>法浪覚威僧正</sup>

作十四五卷<sup>文也</sup>三三三、三三六、三三九、三四一、三四三、三四五、三四七、三四九、三五〇、三五二、三五四、三五六、三五八、三六〇、三六二、三六四、三六六、三六八、三七〇、三七二、三七四、三七六、三七八、三八〇、三八二、三八四、三八六、三八八、三九〇、三九二、三九四、三九六、三九八、四〇〇、四〇二、四〇四、四〇六、四〇八、四一〇、四一二、四一四、四一六、四一八、四二〇、四二二、四二四、四二六、四二八、四三〇、四三二、四三四、四三六、四三八、四四〇、四四二、四四四、四四六、四四八、四五〇、四五二、四五四、四五六、四五八、四六〇、四六二、四六四、四六六、四六八、四七〇、四七二、四七四、四七六、四七八、四八〇、四八二、四八四、四八六、四八八、四九〇、四九二、四九四、四九六、四九八、五〇〇、五〇二、五〇四、五〇六、五〇八、五一〇、五一二、五一四、五一六、五一八、五二〇、五二二、五二四、五二六、五二八、五三〇、五三二、五三四、五三六、五三八、五四〇、五四二、五四四、五四六、五四八、五五〇、五五二、五五四、五五六、五五八、五六〇、五六二、五六四、五六六、五六八、五七〇、五七二、五七四、五七六、五七八、五八〇、五八二、五八四、五八六、五八八、五九〇、五九二、五九四、五九六、五九八、六〇〇、六〇二、六〇四、六〇六、六〇八、六一〇、六一二、六一四、六一六、六一八、六二〇、六二二、六二四、六二六、六二八、六三〇、六三二、六三四、六三六、六三八、六四〇、六四二、六四四、六四六、六四八、六五〇、六五二、六五四、六五八、六六〇、六六二、六六四、六六六、六六八、六七〇、六七二、六七四、六七六、六七八、六八〇、六八二、六八四、六八六、六八八、六九〇、六九二、六九四、六九六、六九八、七〇〇、七〇二、七〇四、七〇六、七〇八、七一〇、七一二、七一四、七一六、七一八、七二〇、七二二、七二四、七二六、七二八、七三〇、七三二、七三四、七三六、七三八、七四〇、七四二、七四四、七四六、七四八、七五〇、七五二、七五四、七五八、七六〇、七六二、七六四、七六六、七六八、七七〇、七七二、七七四、七七六、七七八、七八〇、七八二、七八四、七八六、七八八、八九〇、八九二、八九四、八九六、八九八、九〇〇、九〇二、九〇四、九〇六、九〇八、九一〇、九一二、九一四、九一六、九一八、九二〇、九二二、九二四、九二六、九二八、九三〇、九三二、九三四、九三六、九三八、九四〇、九四二、九四四、九四六、九四八、九五〇、九五二、九五四、九五六、九五八、九六〇、九六二、九六四、九六六、九六八、九七〇、九七二、九七四、九七六、九七八、九八〇、九八二、九八四、九八六、九八八、九九〇、九九二、九九四、九九六、九九八、一〇〇〇

宗命ノ作也四十余卷文

也何<sup>レ</sup>皆諸尊法也

不及野月<sup>一</sup>又沢見<sup>モ</sup>

顕宗<sup>モ</sup>不及野月<sup>ト</sup>覚

禅抄<sup>ト</sup>也近代<sup>ハ</sup>皆修

法等依覚禅抄<sup>一</sup>勤之<sup>一</sup>

也物<sup>ノ</sup>日記<sup>□</sup>伴僧等事

一々<sup>ニ</sup>委之<sup>一</sup>明僧承<sup>テ</sup>修法

等<sup>ヲ</sup>先見覚禅抄<sup>一</sup>也

定誓承<sup>テ</sup>法輪法<sup>一</sup>

向依覚禅抄<sup>一</sup>也覚

禅抄<sup>一</sup>法輪卷<sup>二</sup>云小野

僧正<sup>一</sup>法輪筒黒赤銅

也御室在<sup>之</sup>角洞院僧

正承此法<sup>一</sup>勤行<sup>セン</sup>時申

出此筒<sup>一</sup>云仍任先例<sup>一</sup>

定誓申出<sup>之</sup>アカキア

カ<sup>ノ</sup>子也重申<sup>ス</sup>子細<sup>ヲ</sup>処

其時給小野僧正筒<sup>一</sup>実<sup>ニ</sup>

クロシ御室讚<sup>之</sup>了<sup>一</sup>上

人依覚禅抄<sup>一</sup>告定

誓<sup>一</sup>々々其日<sup>ニ</sup>重<sup>テ</sup>申<sup>テ</sup>

在<sup>リ</sup>高名<sup>ノ</sup>覚<sup>ヘ</sup>云但<sup>ニ</sup>二階

十一ウ

十二ウ

十二オ

十三オ



堂竟禪抄脱此月一云

阿性上人弟子法印云 聖天供

々物ノ上分ヲハ 皆取テ土ニ

被ル埋ノ之コ殘ル物ヲハ人被

与之一云

(二行空白)

建治四年正月二十六日記之了

金剛仏子定

五十六才云

(以下空白)

十三ウ

② 【二三函一―二九】

〔表紙〕

一交了

灌頂行事口伝小野

仙芥集

〔表紙裏〕

三宝院同壇事

願上人云故意教上人仰云

至テ成賢僧止一一度モ不許

同壇一至我時一始メハ雖モ不

許一私ニ廻ヌ故実一近比コ

許一之一故実云印信ニハ書テ

無所不至印ト授時ハ授

大惠刀印一故ニ又坐ラ不居

易ハ一一座許ニテ授之一此

意樂ラ都不可令知人一

〔本文〕

被仰云松橋不可人

云願上人能々禁之一云

正応二年十月十日記之、

定仙在判

(空白)

(空白)

伝法灌頂雜物最略私注文

蘇蜜名香又丁子少々

五宝金銀真珠瑟瑟頗梨

五香沈白檀丁子鬱金龍腦

五葉赤箭人參伏苓石菖蒲天門冬

五穀稻穀大麥小麥菉豆胡麻

已上兩壇並護摩壇料

五色糸五色線白練糸

五色造花十瓶二色別瓶別葩

仏供三石高壇護摩壇 絹一尺二兩壇料 祖師等 布一段護摩

御明油五舛壇敷

壇料

闕伽桶二口在朽折敷十枚

折櫃五合淨衣三領白色

一領絹護摩師料

二領布承仕二人料

新淨薦一枚

一才

一ウ

仏布施紙十一帖

誦經物一裹

布施大阿闍梨色衆 加布施十弟子承仕

饗膳

沐浴事

(空白)

(三昧耶戒折敷図) 今度行事ノ折敷也

図少キタカウ也

是ハ折敷一枚ニ折櫃ノ灯誓

火舎阿加等ヲ置テ脇机ニ

ヲク也灯ヲ折櫃ニ入事ハカヘ

代ニカクヤク故ニ光ヲテラサ

シ料也カタク切アクルハ

大阿闍梨ノ前ヲテラシテ

物ヲミセンカ為メ也

(三昧耶戒壇図) 故実云受

者多時ハ塗

香器ニ入水

一才

二ウ

三才

三ウ

随受者数<sup>一</sup>

小立器<sup>ラ</sup>カサ

子テ机<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>

置<sup>テ</sup>随用<sup>一</sup>

教授取

之<sup>一</sup>也<sup>云</sup>

良勝流三摩耶戒道

場<sup>ニ</sup>在<sup>ニ</sup>第一<sup>一</sup>図<sup>ハ</sup>

行海流<sup>図</sup>也

堂上<sup>烈</sup>与<sup>醍醐</sup>同也 未在異

一番鉢<sup>一</sup> 一番鏡<sup>行</sup>者持<sup>之</sup>

次式衆<sup>數隨時</sup>

次大阿闍梨<sup>十弟子下座</sup> 次居箱<sup>十弟子上座</sup>

次香呂箱

次受者

(空<sup>空白</sup>)

持念珠樣常陸法印云

故僧都云左手<sup>ニ</sup>持念

珠<sup>一</sup> 達磨<sup>ラ</sup>シモ<sup>ニ</sup>下<sup>テ</sup>非

四才

達磨<sup>ニ</sup>方<sup>ラ</sup>カミ<sup>ニ</sup>持<sup>ト</sup>云<sup>云</sup>

私云カミ<sup>ニ</sup>ハチ<sup>キ</sup>サクマト

フヘシ此<sup>ハ</sup>醍醐<sup>ノ</sup>樣<sup>ニ</sup>

同也(念珠<sup>図</sup>)<sup>上</sup>五古<sup>ラ</sup>モ

手具也 右手<sup>ニ</sup>扇<sup>ラ</sup>持<sup>ス</sup>

カヘ代<sup>ラ</sup>マワラントスル時五

古<sup>ラ</sup>右<sup>ヘ</sup>移<sup>ナリ</sup> 加持<sup>シテ</sup>

マワル由也 已上法印說也

醍醐<sup>ニ</sup>ハ右<sup>ノ</sup>扇<sup>ニ</sup>五古<sup>ラ</sup>モチ

具<sup>シテ</sup>庭<sup>ラ</sup>モ 往也<sup>云</sup>

又扇<sup>ハ</sup>懷中<sup>スル</sup>樣<sup>アリ</sup>

是<sup>ハ</sup>不同也

堂上時式衆立正面緣事

常陸法印云勸修寺<sup>ニ</sup>ハ

唯一面<sup>ニ</sup>立<sup>テ</sup>向<sup>フ</sup>堂<sup>一</sup>

也 正面<sup>ラ</sup>ユキスキテ

一面<sup>ニ</sup>立<sup>ツ</sup>也<sup>ト</sup>云<sup>云</sup>

今度行事付此說<sup>一</sup>也<sup>云</sup>

此与醍醐不同也

五才

四ウ

五ウ

法印云理明房灌頂集

記中庭儀時庭ニテハ二行

外縁上ニテ一行列ト見タル

事アリ 衲衆讚衆一

行ニ立ニ見タリ 縁セハキ

時ハ 如是歟

若宮僧正御房若宮ニテ

有授時ハ 隨庭儀一縁

上ニテハ 一行ナリシトヲホフ

可尋人

又云故三河僧都駿河

国牧マヤキト云処ニテ 式衆十

口ニテ 堂上ニ 被行勸

修寺灌頂一立チ 留ル末ハ

一行ノ列也

(三行空白)

受者大阿闍梨入壁代

内事

願上人説ニハ 勸修寺ニハ 受

者十弟子ヒツシサルノ方

ヨリ入等別記云 常陸

法印云寛位法印授

勸修寺一時、如醍醐一向

イヌキヨリ大阿闍梨受

者教授入ルト云

ヒツシサルヨリ入ニハ 露顯

也此行事ハヨキ也云

今度ハ付此説一

同人云阿性上人勤行時ハ

ヒツシサルヨリ受者十

弟子入云 卿阿闍梨行

事ニハヒツシサルヨリ受者

雖入一唯戌亥ヨリ可入一

トテ戌亥ヨリ 被ル入一

教授ハ丑寅ヨリ入云

玉幡堂上用否事

願上人云広沢ニハ 玉幡ヲ 先立テ 正面柱ニ ユイ付テ ヲク也ト云

六才

七才

六才

法印云常ニハ不見之一西院

作法堂上ハ玉幡ユイ付タリト

覺ユ引可見一云

灌頂列事

宮内卿法印云庭ノ儀式ニハ

誦讚一時ハ対向シテ立ッ往

時ハスクニユク也一義云

從初一向カテ前ヘ立テ誦讚

也云此ニ両義中常ニハ

用初義一鎌倉中如此

願上人云皆向フ前ヘ也

持幡童許、讚時対

向ス讚畢レ向テ前ヘ往也云

高野空教房云讚頭

許対向ス余ハ皆向

前ヘ也云

私云勸修寺理明房

式ニハ誦讚一時、向立也

往時向前云

(空白)

堂上

七ウ

宮内卿法印云皆スクニ

向前也一義云庭時対

向ス堂上ハ雖一列外ニテモ

内ヘニテモ讚時ハ向テ讚畢テ

向テ前ヘアユム也ト云

此ハ雖一列一如庭時一雖

存対向義一ソハヘ向也

付之一必シモ不可出一一列

時ハ不可存対向義一

仍直ク向前誦シテ讚一

八才

其後ヤカテアユムヘキ也云

同人云如此事異義雖

多一私ニハ付道理一也

一向迎カウ前ヘ也

中納言僧都頼乘云

堂上ハ安祥寺モ余流モ

皆直ク初ヨリ向前也一ソハ

八ウ

九才

へ不向<sup>一</sup>誦讀<sup>一</sup>時<sup>モ</sup>必向

前<sup>一</sup>也<sup>ト云</sup>

願上人云堂上<sup>ハ</sup>必向前<sup>一</sup>也

前<sup>ハ</sup>ムカテチト戸<sup>ハ</sup>向義<sup>アリ</sup>

ウルハシクハタチムカワス

スコシ身<sup>ヲ</sup>フリムク許也

願上人云故意教上人仰云

如此事<sup>ハ</sup>フルキ人<sup>ノ</sup>セラレ

タルヲ大概マナンテ其上<sup>ニ</sup>

随<sup>テ</sup>処<sup>一</sup>シニクキ事アレハ

ミヨクシヨキヤウニスル也

必決定<sup>シテ</sup>昔<sup>ノ</sup>如クスル事

ハカタクナワシキ事也此等<sup>ノ</sup>

儀式マテハ儀軌本軌<sup>ニ</sup>ナシ

先達<sup>ノ</sup>ハカライトモ也<sup>ト</sup>被

仰<sup>一</sup>

平座事

中納言僧都頼乗云

佐々目僧正御房開田殿<sup>ニテ</sup>

九ウ

御灌頂<sup>アリキ</sup>式衆十六人

其中<sup>ニ</sup>僧正四人<sup>アリキ</sup>

式衆前<sup>ニ</sup>坐ス大阿闍

梨<sup>ト</sup>受者<sup>ト</sup>次<sup>ニ</sup>来<sup>テ</sup>

着座<sup>シテ</sup>其後立<sup>テ</sup>入

壁代内<sup>一</sup>御<sup>シキ</sup>或<sup>ハ</sup>直<sup>ニ</sup>

不<sup>シテ</sup>着座<sup>一</sup>入壁代内<sup>一</sup>

事<sup>モ</sup>アリト聞<sup>ク</sup>也然

間平座<sup>ナレハ</sup>トテ必式

衆<sup>ノ</sup>少キ事ハナキ也

堂上<sup>ニハ</sup>ヲコナワルヘシト云

ヘトモ其時<sup>ハ</sup>平座也庭

儀<sup>ヲハ</sup>悠御室<sup>ヲ</sup>マイラ

セテ不<sup>ト</sup>被行<sup>一</sup>云<sup>云</sup>遁

世故也<sup>云</sup>

安祥寺平座

同人云安祥寺<sup>ニハ</sup>式衆四

人大阿闍梨受者直<sup>ニ</sup>

入壁代内<sup>一</sup>御<sup>ス</sup>四人式衆

十ウ

カワル<sup>〃</sup>〃<sup>〃</sup>勤<sup>ル</sup>役<sup>一</sup>也或<sup>ハ</sup>無<sup>キ</sup>

式衆<sup>一</sup>時<sup>ハ</sup>念誦僧<sup>ト</sup>テ唯

一人アリキ授之<sup>一</sup>云

(二行空白)

堂上時ノ式衆大阿闍梨座事

願上人云南<sup>ハ</sup>向堂<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>

別ノ縁<sup>ヨリ</sup>引<sup>ク</sup>列<sup>一</sup>時<sup>ハ</sup>式

衆東<sup>ハ</sup>ユキスク仍式

衆ノヤカテ入<sup>テ</sup>坐<sup>ス</sup>ルタヨリ

二東<sup>ニ</sup>式衆ノ坐<sup>ラ</sup>敷<sup>ク</sup>大

阿闍梨坐別也東ノ縁<sup>ヨリ</sup>

西<sup>ハ</sup>マワル時<sup>ハ</sup>西<sup>ハ</sup>ユキスク

ル故<sup>ニ</sup>西<sup>ニ</sup>式衆ノ坐<sup>ラ</sup>敷<sup>ク</sup>

東<sup>ニ</sup>大阿闍梨ノ坐也

已上被説也

私云当時ノ行事<sup>ニ</sup>ハ不用<sup>之</sup>一

也醍醐勧修寺同<sup>ク</sup>東<sup>ヨリ</sup>

西<sup>ハ</sup>マワリスタイル時<sup>モ</sup>東<sup>ニ</sup>式

十一才

道三反<sup>アル</sup>故<sup>ニ</sup>東<sup>ニ</sup>シク

モ不苦也

私云阿弥陀堂<sup>ニ</sup>テ越後

僧都授三河律師時

堂上<sup>ハ</sup>西ノ縁<sup>ヨリ</sup>引<sup>テ</sup>式

衆坐東也必<sup>シ</sup>モ不定<sup>一</sup>歟

常陸法印云大旨如此<sup>一</sup>

也必<sup>シ</sup>モ東<sup>ヨリ</sup>往<sup>テ</sup>東辺<sup>ニ</sup>

坐スル事ハ無也庭儀時

坐セマキ<sup>ニ</sup>ハ納衆讚衆

別々<sup>ニ</sup>左右<sup>ニ</sup>坐也<sup>云</sup>

醍醐勧修寺伝法灌頂異事

願上人云醍醐ノ伝法灌頂<sup>ハ</sup>

具支灌頂儀式也仍

驚覚ノ鈴<sup>モ</sup>ハヤシ三昧

耶戒ノ壁代ノ内<sup>ニ</sup>モカワル

事<sup>アリ</sup>大壇小壇<sup>ニ</sup>モカワル

事多也花ノ立様等

十二才

多カワル也<sup>云</sup>

十二才

十二才

十二才

十二才

願上人云広沢ニハ堂上ノ

時モ玉幡ヲ持幡童雖

不持之一先立テ正面ノ左右ニ

ユイ付テヲク也醍醐勸

修寺ニハ無其義云

小壇五瓶立事

醍醐ハ如式ニ者、中四方也兩部同也

勸修寺如式一者、中四角也兩部同也

理明房灌頂集記ニ引長

承記一□金界ハ中四方也

胎界ハ中四角也今度ハ

常陸法印、兩部俱中

四方ニ立之一俱ニ仏果ノ

灌頂ノ故也胎藏ナレトモ

非因灌頂一胎藏ノ五仏ノ

瓶水ヲ灑也非ス四菩薩

瓶一然間兩部俱仏

位ノ灌頂也昔口伝ノ如此一

聞シトヲホユル也ト云

雖爾一如長承記一者金

界ハ中四方也胎界ハ

中四角也可依此說一歟

醍醐

初夜

後夜

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

十三才

勸修寺

兩部俱不異

○ 初夜胎

○ 後夜金

○

○

○

○

依式也

兩部俱同也

十四才

○

後夜金

○ 初夜胎

○

○

依長承記一

○

○

兩部不同也

(一行空白)



兩壇花ハ俱ニ中四角  
醍醐勸修寺同也云

(一行空白)

薦事

薦ハ阿性上人半条(マヤ)上ニ

敷クホトニ切テ高座

下ニヲカル椽モ手洗モ同

並ラク高座下一望時一

礼盤ヲ取却テ半条(マヤ)

許ラ敷テ其上ニ薦ラ

敷也故三河僧都モ

如是一行之一也故寛位

法印ハ唯敷礼盤上一

同醍醐云

又受戒時ハ同壇人皆

座ス枝木誓水時ハ正

受者許留テ本座ニ

正受者出畢テ一人ツッ

次第ニ入也同時ニ座シテ見

事無シ云醍醐ハ枝

木誓水時モ同時ニ坐也

√三昧耶戒儀式並囟

灌頂道場等事

本四卷抄一卷在之一

引可見之一至小嶋

等一在之云

(一行空白)

枝木事本四卷抄卷ニ

之引別受者雖多一

飭リノ枝木ヲハ唯一ヲ可シ

奉供仏一必シモ每受

者一不可供仏云

常陸法印説也故僧

都供仏一枝木ヲハ正受

行事也者可数一歟卿阿闍梨ハ每

私云醍醐ハ每受者一供之一

(一行空白)

十五才

√誦經鐘事

十五ウ

常陸法印云堂上時ハ

大鐘ヲハ略之一故道宝

僧正被行堂上一時如是

地体大鐘無故略之一

仍有<sup>ラム</sup>時雖打不可

告一コト<sup>ハ</sup>シカラスシテ

行<sup>セム</sup>時ハ雖有大鐘

略之不可告、今度

付不打義<sup>云</sup>

誦經導師、打ハ磬<sup>ヲ</sup>三ッ打也<sup>云</sup>

教授入壁代一事

式云次教授入<sup>ル</sup>於<sup>ニ</sup>幕

西面<sup>一</sup>文打任<sup>テ</sup>南向

也付<sup>テ</sup>其<sup>ニ</sup>西面者戌亥

方歟自然<sup>ニ</sup>同醜<sup>ニ</sup>

歟式如是<sup>一</sup>勸修寺<sup>ニ</sup>

式ノ外<sup>ニ</sup>シツケテ丑寅

或<sup>ハ</sup>辰巳<sup>ヨリ</sup>入歟今

十六才

入

受者ノ香呂箱ノ有無ノ事

或云以十弟子<sup>一</sup>令<sup>ト</sup>置

受者ノ香呂箱<sup>一</sup>文

法印云付<sup>テ</sup>香呂箱ノ有<sup>ル</sup>ニ

云爾<sup>一</sup>也無時<sup>ハ</sup>必<sup>シ</sup>モ不

爾<sup>一</sup>

(一行空白)

衆会処坐事

随便宜<sup>一</sup>設<sup>ル</sup>大阿闍梨

坐<sup>一</sup>也次納衆讚衆互<sup>ニ</sup>

チカヘ<sup>ハ</sup><sup>ハ</sup>モ坐<sup>シ</sup>或次第<sup>ニ</sup>モ

坐歟受者<sup>ハ</sup>讚衆ノ末<sup>ニ</sup>

設<sup>テ</sup>半帖<sup>一</sup>ナン人<sup>モ</sup>坐也

十弟子無坐<sup>一</sup>大阿闍梨

出時、立<sup>チ</sup>設<sup>テ</sup>来<sup>テ</sup>トモヲ

スル也大阿闍梨ツク<sup>ハ</sup>

ト坐<sup>ニ</sup>往事無之衆会

十七才

十七才

之<sup>一</sup>来<sup>テ</sup>座<sup>シテ</sup>ナカテ  
立也

外陣式衆坐事

法印云<sup>一</sup>面<sup>ニ</sup>坐也胎界

時<sup>ハ</sup>東上座西下座、金

界時西上座東下座<sup>云</sup>

以金剛線懸阿闍梨

左臂<sup>ニ</sup>時尅事

法印云如式振鈴次<sup>ニ</sup>

懸<sup>テ</sup>之<sup>一</sup>乍懸臂<sup>ニ</sup>成

受戒儀式<sup>一</sup>至枝木

時<sup>一</sup>令懸受者臂<sup>ニ</sup>無

加持義<sup>一</sup>唯懸臂<sup>ニ</sup>時

誦<sup>一</sup>ノ真言<sup>一</sup>云<sup>云</sup>

内道场内事

鎮守供

十八才<sup>一</sup>

十八ウ<sup>一</sup>

○阿伽	○塗香	○花鬘
○洗米	○火舍	○灯明
○阿伽	○塗香	○花鬘

洗米<sup>ハ</sup>大土  
器也  
如是<sup>三</sup>前也<sup>云</sup>

(一行空白)

賀茂  
八幡  
稻荷

告惣礼事

式<sup>ニハ</sup>大阿闍梨告惣礼

<sup>二音初高次</sup>仍道宝

<sup>大御堂人小御堂</sup>僧正授定祐僧都時

自告之<sup>一</sup>又定祐僧都

自勤<sup>メテ</sup>大阿闍梨授人<sup>一</sup>

時教授告之<sup>一</sup>仍不定也

法用<sup>ハ</sup>式<sup>ニ</sup>教授告之<sup>一</sup>今

度<sup>ハ</sup>惣礼付式<sup>一</sup>大阿闍

梨告之<sup>一</sup>法用<sup>ハ</sup>教授

十九才<sup>一</sup>

告之一

(二行空白)

平座事

常陸法印云故寛位

法印ハ式衆六人先

立座ス大阿闍梨ハカタハ

ノヘヤヨリ出テ入ル

壁代内ハ受者モ行

方ヨリ来テ着座一法

用ハ式々ト勤ム之一

又常陸法印云故道

宝僧正御房二位殿

小御堂ニテ勸修寺灌頂、

被授三河僧都一時ハ

平座也式衆六口先

立着座、僧正御房ハ

便宜ノ障子ノ内ヨリ

出テヤカテ壁代ヘ

入御ス受者ハ大阿闍

十九ウ

梨御出アリシカハヤカ

テ参テ着座云云

(二行空白)

大阿闍梨加行事

法印云道宝僧正御房

無加行作法一阿性上人

亦爾也故定祐僧都

無加行義一至某甲等

無其義也

私云卿阿闍梨御房

無加行義三宝院ニ

有此義加行一流々異義也

(二行空白)

還烈事(ママ)堂上ニハ大旨略之一云

故道宝僧正時ハ堂上ニ

雖可有還列一臨時

略之一唯ハラハト返ル

如醍醐

庭儀ニモ故阿性上人

二十ウ

二十一才

二十才

二十一ウ

被略之一事アリキト云

今度堂上三法印御房

被略之一

教誠事

同人云結願ノ時二略シヌレハ教

誠一後朝マツ還烈ハ行不

行任意一云

同人云略教誠ハ常事

也庭上ノ教誠コハミタ

ル時行之

良瑜僧正、授佐々

目僧正御房一御シ時山ニテ

作庭教誠一御シ雨

頻ニ降ル受者ノ方ヨリ

ハカサヲサラス（平濁）大阿闍

梨ノ方ノ房官サシヌ

キニテ以笠一ヨテ指

受者一云

私云阿性上人、奉授

二十二ウ

極樂寺長者一時、有

庭教誠一但覺法房二

作其儀式一云

尋云堂上時、至衆

会一作嘆德一耶

法印云不承及一云

又堂上時、至衆会

処一作略教誠一耶

同人云不承及一云

（一行空白）

庭教誠事

式云大阿闍梨着平

袈裟一自後戸一徐

向歎德所文

法印云故良瑜僧正御

房、授頼乗僧都一御シ

時ハ新阿闍梨ノ疊ノハシ

イハツレテ坐シ御シキ

半ハタハミ坐ハシモニ御

二十三ウ

二十三オ

坐アリキ嘆徳ノ間也

又左大臣法印御房、授

源瑜法印<sup>一</sup>御<sup>シ</sup>時<sup>ハ</sup>屏

風ノウシロニカクレテ御坐

アリキ

勸修寺金剛界式末云

十弟子擎道具<sup>一</sup>並

威儀僧等在後<sup>一</sup>文

威儀僧者法印云貴

人ノ大阿闍梨ノ御時<sup>ハ</sup>

威儀師、從儀師<sup>ト</sup>テ

公人ヲメシ具<sup>シ</sup>テ御共<sup>ニ</sup>

被<sup>ル</sup>具<sup>一</sup>云 其外亦侍、

房官、サシヌキ着<sup>テ</sup>

御共<sup>ニ</sup>アリ 又後從<sup>コシヨク</sup>

僧綱<sup>カウ</sup>トテ式衆ノ中ニサル

ヘキ人御共<sup>シ</sup>テ列<sup>ニ</sup>

立<sup>テ</sup>御<sup>ス</sup>時、我<sup>カ</sup>坐ツホ (平濁)

ヘ往也<sup>云</sup>

二十四才

式云次大阿闍梨向教

戒所<sup>一</sup>文 自嘆徳所<sup>一</sup>徐

往教誡所<sup>一</sup>也<sup>云</sup>

式云次受者於教戒

所庭上<sup>一</sup>三拜<sup>敷</sup>筵

法印云コモヲミヨリニタ

ミテナカサマニマヘ敷

也其上<sup>ニ</sup>シテ受者三

拜<sup>スル</sup>也

嘆徳ノ処<sup>ヨリ</sup>受者スク

ト往教誡処<sup>一</sup>也<sup>共</sup>

ナシ口スク

式衆共<sup>ハ</sup>アソココ

隨<sup>テ</sup>便宜<sup>ニ</sup>ナミ立<sup>テ</sup>見

物<sup>フツ</sup>スル也

大阿闍梨御坐事

法印云教誡時<sup>ハ</sup>必本

堂也 本堂ノ内陣ノ端

ヨリテ畳<sup>ヲ</sup>敷也 縁<sup>ニ</sup>ハ

二十五才

二十五才

不敷<sup>一</sup>也新阿闍梨坐<sup>ニハ</sup>  
必コモヲシクヘキ事  
法印云必薦<sup>ヲ</sup>敷也

但阿性上人授極楽寺  
方丈<sup>一</sup>御<sup>シ</sup>時覺<sup>ヲ</sup>シカ

シキ人難之<sup>一</sup>也其<sup>モ</sup>  
有先例<sup>一</sup>雅宝授

成宝<sup>一</sup>時、覺<sup>ヲ</sup>敷タリキ  
其例也<sup>云</sup>

式云有差事了分

散了<sup>文</sup>差字難訓<sup>可尋</sup>

(以下空白)

新阿闍梨

持<sup>權</sup>  
阿闍梨  
持<sup>權</sup>

所  
作  
人

二十六才  
八六四二一三五七  
十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九  
鏡 鉢 鉢 鏡

號德之時式衆立様也

二十六ウ  
法印云式衆ノ立様、フタヘ  
ミヘニスル<sup>ク</sup>トヲリテ

付也常<sup>ニハ</sup>如此<sup>一</sup>スル也  
勸修寺<sup>モ</sup>爾也

(三行空白)

押紙云還列之時、教授  
物具幡<sup>ヲ</sup>取出<sup>テ</sup>十弟子<sup>ニ</sup>  
与<sup>之</sup>文<sup>一</sup>義云式衆<sup>ハ</sup>次  
第<sup>ニ</sup>立<sup>ツ</sup>列<sup>一</sup>教授且<sup>ク</sup>

二十七才

二十七ウ

留テ物具ヲ取出テ与

十弟子ニ也

又云次教授出文 取り出テ

物具<sup>一</sup>後、教授我カ

坐ツホ（平濁）へ往テ列スル也

又云次受者出者教授

出<sup>テ</sup>後受者出<sup>テ</sup>立列<sup>一</sup>也

又云大アサリハ後ヨリ出テ

閑道ヨリ還ル文

義云自閑道へ欲徳之

処受者ノ後へ往也云

嘆徳時受者受礼否事

受者返答畢<sup>ラハ</sup>式衆ハ

雖<sup>モ</sup>礼<sup>一</sup>ツトニケハシリ

立<sup>テ</sup>カタ<sup>一</sup>ハ往<sup>ク</sup>也有

其恐<sup>一</sup>故、此穩便ノ

様也云

（一行空白）

壁代卷<sup>マ</sup>キ<sup>キ</sup>拳<sup>ル</sup>事

二十八才

式中ニハ從東<sup>一</sup>卷<sup>マ</sup>ケト<sup>一</sup>之

云<sup>ヘリ</sup>三方<sup>ラ</sup>アケ（平濁）テ

北方<sup>ラ</sup>アケ（平濁）スト云<sup>ヘリ</sup>

ソトヨリマケ内ヨリ

卷<sup>ト</sup>分<sup>ツ</sup>コトナシ唯從

東方<sup>一</sup>マケト云也<sup>注意也</sup>

式末云次以十弟子等<sup>一</sup>

令<sup>ア</sup>揚<sup>ケ</sup>四面幕<sup>一</sup>方<sup>上</sup>北方

不<sup>令</sup>令<sup>ヨ</sup>置礼盤<sup>一</sup>文

私云如簾父<sup>一</sup>者以十弟子<sup>一</sup>

何<sup>レ</sup>ノ方<sup>ト</sup>モ不<sup>ス</sup>云<sup>一</sup>四方<sup>ラ</sup>卷<sup>キ</sup>

上<sup>ア</sup>ク如經<sup>一</sup>者從東<sup>一</sup>卷<sup>キ</sup>上<sup>テ</sup>

北方<sup>ラ</sup>不<sup>キ</sup>不<sup>キ</sup>云<sup>一</sup>今度<sup>ハ</sup>何<sup>レ</sup>

方<sup>ト</sup>モ不<sup>ス</sup>云<sup>一</sup>左右<sup>ヨリ</sup>

十弟子二人<sup>シテ</sup>卷上<sup>テ</sup>北

方<sup>ラ</sup>残<sup>ス</sup>也云

雖無<sup>ト</sup>日記<sup>ニ</sup>性如房灌頂

時<sup>ハ</sup>十弟子自内<sup>一</sup>拳

之十弟子ノ淺臆也

二十八ウ

二十九才



無日記一故必シモ非定

說云

醍醐ハソトヨリ拵之一

十弟子一人也或自一方

出或自左右一出二様

也此ノ歩々行事一

度ハ自正面一西東ヘアケ

ユク此ハ自左右一出テ〃

アクル也今度ノ行事ハ

自西シ一方一出ツ二人ツ

レテ西ヨリ東ヘアケユク

也云

受者頌文事勸請詞也

法印云受者多時ハ正

受者一人也余人ハ略

之故定祐僧都行

事也云頌文ハ教授

其日ニナリテ与ル也勸

修寺ニハ表白無也醍醐ニハ

二十九ウ

表白在之一醍醐ハ一日

前立与之一

五色糸楊枝事

図云五色糸楊枝香呂

筥入文

法印云可入戒体筥一

故僧都時爾也云

今度付此行事

焼香闕伽等事

図云此机ハ焼香闕伽

塗花灯明各一杯、

折敷盛居テ乍ラ折敷一

置ケリ文

私云此ハヲク許也非供儀式一

式云供養物、教授隨

阿闍梨命一モモタケ一々擡テ之一

令見受者一文一々供物、

有ル折敷一取テ供之一

也云仍一々擡テ之一加

三十オ

三十ウ

三十一オ

持之<sup>一</sup>

私云以小三古印誦

枳哩々々呪<sup>一</sup>加持之<sup>一</sup>

醍醐如此今亦可

爾<sup>一</sup>歟

花鬘<sup>ハ</sup>花<sup>ヲ</sup>不散<sup>一</sup>云

列式<sup>一</sup>真言<sup>ハ</sup>授時

誦之<sup>一</sup>云

或塗手中<sup>一</sup>薰手

中<sup>一</sup>者私云擎兩

手<sup>ニ</sup>許也無別子細<sup>一</sup>

醍醐如此法印說<sup>モ</sup>爾也

已上三摩耶戒

(以下空白)

裏書云

取阿伽水事

願上人云勸修寺<sup>ニハ</sup>無

別作法<sup>一</sup>承仕取之

受者加持事

三十一ウ

願上人云阿性房云勸

修寺<sup>ニハ</sup>雖無此作法<sup>一</sup>用

此儀式<sup>一</sup>不可苦<sup>一</sup>タ<sup>ハ</sup>受

者加持<sup>ヲ</sup>用御<sup>スヘシト</sup>云

五瓶加持事

願上人云阿性上人用之<sup>一</sup>

私云良弘法印流有之<sup>一</sup>

了<sup>一</sup>上人云兩部阿伽水<sup>ヲ</sup>

一<sup>ニ</sup>入合<sup>テ</sup>此水<sup>ヲ</sup>入五瓶

々々カサル時大阿闍梨

加持<sup>スル</sup>之<sup>一</sup>也教授<sup>モ</sup>加

持シツヘキ人<sup>ナレハ</sup>加持之<sup>一</sup>

也惣<sup>ニ</sup>加持<sup>シ</sup>別<sup>ニ</sup>加持

別<sup>ニ</sup>加持<sup>スト</sup>云五瓶<sup>ノ</sup>一々

明<sup>ニテ</sup>加持之<sup>一</sup>惣加持<sup>ハ</sup>

大日秘密<sup>ノ</sup>兩真言加

持之<sup>一</sup>也<sup>云</sup>

已上裏書也

(二行空白)

三十二ウ

三十三オ

已下内道場事也

式云次讚時持白一々

受者身一文

法印云故僧都ハ讚ノ

ハツルマテ以降三世真

言一払之也但必シモ

不ハ当テ肩カタ一ニ只我前ニシテ

スコシフリキタル也ト云

次始從中台瓶水次

第灌頂之

法印云必シモ頂ニ不指付一

只頂ノ方ハ七反灑之

散丈ヲ中ハ入テソチヘ

ムケテソク也云

次取五股誦偈并明一

授受者乎

法印云手ヲ下ヘウツフ

セテ五古ヲ持テ受者ノ

手ニ兩度当ツ之一手ヲ

三十三ウ

ハナサス受者ノ手ノ兩

手ヲ並テアヲクル也

第三度ノ時ハ五古ヲ

タテハ受者ノ手ニアツル也

是モ五古ヲハナサス每

度誦偈一下ニ授モ五古ヲ

亦如是一云

醍醐ハ不爾一乍三度一

横ニ与テ手ニイタハカスル

也云

勸修寺後夜教誡

授五古一如醍醐一不定歟

次阿闍梨執白傘覆

於頂上一遶壇三匝文

法印云故道宝僧

正御房小御堂ニシテ

授定祐僧都一御時、

阿性上人教授也其時

願上人ト定宣トウシロ

三十四ウ

三十五ウ

ヨリヤワラノソイテ見  
マイラセシ時阿性上人

勤<sup>メ</sup>之<sup>一</sup>ラレキ仍故

僧都被授人<sup>一</sup>時<sup>モ</sup>教授勤<sup>之</sup><sup>一</sup>

也<sup>云</sup>

次ノ教誡<sup>モ</sup>教授勤<sup>之</sup><sup>一</sup>

也<sup>云</sup>

此ノ等三昧耶等<sup>文</sup>此<sup>ハ</sup>

教誡也教授勤<sup>之</sup><sup>一</sup>

別<sup>ニ</sup>物<sup>ニ</sup>書出<sup>シテ</sup>被勤<sup>之</sup><sup>一</sup>

次受者ノ答<sup>アリ</sup>臨<sup>ハ</sup>時<sup>一</sup>受

者言<sup>ニ</sup>ノヘカタシ此<sup>ラハ</sup>カ

ヤウニヲモヘト教授教<sup>ル</sup>

也<sup>ト云</sup>

次授印可<sup>一</sup>時<sup>ハ</sup>教授サシ

ノイテトヲサカル也

次結縁灌頂勤行、取<sup>リ</sup>隱<sup>シテ</sup>

小壇具足許<sup>一</sup>大壇<sup>ト</sup>

祖師<sup>ト</sup>供物等<sup>ヲ</sup>不取隱<sup>一</sup>

三十五ウ

結縁灌頂許勤行<sup>スル</sup>時<sup>モ</sup>

仏供等<sup>ハ</sup>如伝法灌頂<sup>一</sup>其<sup>モ</sup>

不取去<sup>一</sup>也<sup>ト云</sup>

入内道場<sup>一</sup>戸事

胎界時自東<sup>一</sup>入<sup>ル</sup>金

界時、自西<sup>一</sup>入<sup>ル</sup>今度

其義也<sup>云</sup>醍醐<sup>ハ</sup>自

左右<sup>一</sup>不入<sup>一</sup>兩界共<sup>ニ</sup>

中ノ様<sup>ヨリ</sup>入也屏風<sup>ニ</sup>

双ノ中間也

具支与伝法異事

伝法<sup>ハ</sup>大阿闍梨坐<sup>ス</sup>椅<sup>イ</sup>

子<sup>ニ</sup>坐<sup>ラ</sup>居カワラサル

故具支<sup>ハ</sup>不坐椅子<sup>一</sup>

ヒキク坐<sup>ス</sup>坐<sup>ラ</sup>居カ

ウル故也

内、心用、意、事

存具支心地<sup>一</sup>人<sup>ハ</sup>伝法

時<sup>モ</sup>可<sup>シ</sup>存此心地<sup>一</sup>不聞具

三十六ウ

三十六オ

三十七オ

支心地一人唯可存

伝法心地許也云

伝法灌頂器事

法印云故阿性房、伝法

灌頂ヲハ唯結縁分ト被

思一タリキ少々事アリ

トイヘトモ許之一給キ

非如具支一云

五瓶ノ五宝、入瓶ニ耶事

法印云勸修寺入瓶

也今度行事而也

三宝院行事如何

願上人云高野ニテ故上

人時不入中一瓶少故也

熊ト作レル瓶コソ大ニシテ

イルレ少ヲハ不入一也サレ

ハトテ大ナルニモ不ラレハ入一

誤也儀軌本経モ中ニ

盛満コト云ヘリト云云

(一行空白)

正応二年九月二十四日勤行

時記之

(以下空白)

定仙御判

(空白)

教誡ノ処ハ自嘆徳処一

付テ閑処ニ往也必不

経筵道一受者ノ坐ニハ

薦ヲ折テ敷ニ敷之

也礼拝等可見長承記

薦上ニ草座坐具ヲ不敷一

大阿闍梨ハ内陣ニ敷物一

坐也受者ノ坐ハ縁ノキワ

ニセメヨセテ不敷ス

コシヒキノケテ敷之也

又大阿闍梨後ニハ十二

天ノ屏風ノ片方ヲ立也

イシヤナハ受者ノ処ニ

在之次ノ屏風ヲ大

三十八ウ

三十九ウ

三十七ウ

三十八ウ

三十九ウ

阿闍梨ノ処ニハ立ツ之

又大阿闍梨持シテ五古<sup>コ</sup>ヲ坐スル

事必<sup>シモ</sup>コト<sup>コト</sup>ノシカラス

如常<sup>マ</sup>ヘニソヘテ可持之<sup>一</sup>

乳ニアテ<sup>テ</sup>ノ不可持之<sup>一</sup>

一受者至ルハ嘆徳処<sup>一</sup>或<sup>ハ</sup>

閑道<sup>ヨリ</sup>往也或<sup>ハ</sup>閑

道無<sup>ケレ</sup>ハ直<sup>ニ</sup>自前<sup>ハ</sup>入ル

也

一後夜ノ時ニアケヒロクル事

無<sup>シ</sup>夜<sup>ハ</sup>平袈裟<sup>ヲ</sup>着

也為選列<sup>一</sup>或一人或二人

五悔ノヒマニ出<sup>テ</sup>装

束<sup>ヲ</sup>シカヘテ入也ヒラ

ケサニテハ見<sup>ニ</sup>ミヘサル

故也然間後夜ノ時<sup>ニハ</sup>

アケサル也

(二行空白)

一縁広<sup>キニハ</sup>一方<sup>ニ</sup>甲衆納

衆立也縁狭<sup>ニハ</sup>兩方<sup>ニ</sup>

分<sup>ケ</sup>テ立也

一アク屋<sup>ヨリ</sup>出ル事<sup>ハ</sup>与

醍醐同也但慢門アル

ヘシ鉢等<sup>ハ</sup>慢門ノ内<sup>ニ</sup>机<sup>ニ</sup>

置也<sup>云</sup>

永仁二年九月十八日記之

常陸法印説也

定仙記之

(以下空白)

弘安六年三月六日ノ灌

頂堂上<sup>ニ</sup>行之式衆六

人<sup>其時注之</sup>

草座<sup>ハ</sup>有式用之仍

僧<sup>ハ</sup>略<sup>モ</sup>之<sup>一</sup>不苦<sup>一</sup>又

用<sup>モ</sup>不苦<sup>一</sup><sup>云</sup>仍今

度略<sup>之</sup><sup>一</sup>

三衣箱<sup>ヲ</sup>ハ高座ノ左

脇机<sup>ニ</sup>置<sup>ケ</sup>可見函

四十才

四十一才

四十ウ

四十一ウ

香呂箱ヲハ右ノ机ニ置ク

四十二才

如函

次受者

三番 香呂箱十弟子

如意 戒体箱 坐具

草座 前立ヲク也

二番 三衣箱十弟子

左手ニ念珠、扇、

念珠、二匣ナルヘシ

但タツマヲ下ニスル也

誤テツツル故ニ頭

指中指ノ間ニ一匣ヲ

カラム也 扇ヲハ其

手ニ把ル也

一番 大阿闍梨 右ノ手ニハ

持五古右ノ乳ニアツル也

後

次々ハ 依ラウニ一立下麿前也

二番 鏡行者持之

一番 鉢

前サキ

釈迦堂ノ正面ノ東縁

釈迦堂正面ノ西縁

正面 持金剛衆 式衆六人

僧 讚頭 誦

僧 物

僧 鏡持

僧 鏡持

僧 鏡持

僧 鏡持

僧 鏡打

僧 鏡打

僧 鏡打

西

先讚頭誦經物ノ処ニ

留マレハ鏡打ハ スキテ

花箱ノ処ハ 行也 鏡持ハ

中ニ立也

四十三才

四十三才

持金剛衆ハ下臈前ニ

ユキスキテ花箱ノ

ホトニ留ル也次第二マク

ハテ立也阿闍梨カ

ヘシロニ入レハ持金剛衆

下臈前ヲトヨリテ正

面ヘ往テ行道ス次々ハ

依次一 次第二ツレテメク

ル也三反後付坐一

押紙ニ経テ高座東二三

拜者高座ノ東ヨリ

入テ正面ニテ三拜ト云

事也職衆ノ惣礼ト同

時ニスル也

教授ハ惣礼ト一声モ

ヨロシテカヘシロヲ出テ受

者金ヲ打也云

登高座用意

登高座時可為阿字觀一

四十四才

次仏眼小呪二十一反座ハ

胎藏仏眼我ハ金界金

輪兩部不二ニシテ悉地ヲ

成就ス三寶院又阿闍

梨ト弟子トノ心月輪ニ觀

スル事アリ三寶□

体相弗~~ト~~ト心<sup>勸修寺</sup>

受者教授入処<sup>勸修寺</sup>

中納言法印云阿性房

説云未申ノ角ヨリ入ルト□

長承記云受者、教授、

俱ニ丑刀角ヨリ入ルト云

願上人云勸修寺ニハ大阿

闍梨ハ自戌亥角一入ル

余人輒<sup>ク</sup>自此一不入一

受者十弟子ハ自未

申角一入□教授ハ或ハ

辰巳角、或丑刀角

依時也 醍醐ハ一向大阿

四十五才

四十五ウ



闍梨受者教授皆

戌亥ヨリ入也ト云

(二行空白)

√受者加持事

卿阿闍梨仰云勸修

寺当流一向無之

常陸法印云爾也

√阿伽水取事(マ)ハ、嚴惠

阿闍梨ハ、増瑜トツレテ

往テ加持ス之一 静瑜僧

都ハ無其義一 唯一向

承仕取之一 常陸法印云無一作法唯承仕取之

三宝院ニハ、了心房云故

意教上人ハ、以阿闍

梨位真言一 加持シテ 受者一

印明ラクチウツシニ授

御シキト云□此ヲホウル也ト

云 中納言法印云唯

大阿闍梨加持許也 無授ル

受者一事也

私云乘徧式(マ)モ無授之一 事

唯加持許ト見タリ 意

教上人直被授之一 御ス

不審也云

乘徧式ハ、勝賢最初

授寛照阿闍梨時

作法也(治承三年事也)

一受妙拳(マ)子事

覚密房ハ、給印信時

也 卿阿闍梨仰云故

嚴惠阿闍梨時印信

給ハシ 時受也 静瑜

僧都モ 亦爾也

一覚密房云無受者

加持勸修寺

一同人云勸修寺取阿伽

水事□教受ト承仕也

卿阿闍梨仰云静瑜

四十六才

四十七才

四十六ウ

四十七ウ

僧都時ハ承仕役也受者不往

故嚴惠阿闍梨時阿

闍梨ト受者ト俱ニ往テ

取ル有其作法云云

一覺密房云門前ニ無

灑水内道場壇前

許也私云諸日記難

門前無之尤爾者常陸

法印云有門前灑水云云

一小壇前無屏風自大

壇皆見ユル也覺密房說

卿阿闍梨爾也醍醐ニモ

故法性寺法印ハ無屏風一

(二行空白)

神供事

嚴覺僧都口伝注シタル

物ニハ胎界十二天金界

二十天文卿阿闍梨仰云

四十八ウ一

兩界俱十二天也不可有相違一此一ノ習也

又護摩ニハ以無習一為習云云

云云

齒木事

今ノ式テツ押紙ニ徹スト礼版一

者師云トリノクト云コホツ

事也今押紙ニ召十

弟子一令ト取出一文

壁代ノ外ハ取出敷勸

修寺ハ唯板敷ニ薦ヲ

敷テ其上ニ立齒木也

醍醐ハ乘偏式云次

自戒体宮一先取ニ

楊枝一置前机一以無

動呪一加持之一次灑

香水一次薰香一此間

受者退キテ下リ礼盤一

了テ西辺蹲居ス教一

四十九ウ一

授師、取り寄<sup>ヨ</sup>セテ三種

物一先薦<sup>ラ</sup>三折<sup>ニシテ</sup>敷<sup>テ</sup>礼

盤面<sup>ニ</sup>教授師、礼盤

東ノ辺<sup>ニ</sup>蹲居<sup>ス</sup>次取<sup>テ</sup>椽

手洗<sup>一</sup>置礼盤ノ南ノ辺<sup>一</sup>

已上仍<sup>コ</sup>モヲ醒醐ハ礼

盤ノ上<sup>ニ</sup>敷<sup>ク</sup>此流<sup>ハ</sup>板敷<sup>ニ</sup>

シク也又此流<sup>ハ</sup>礼盤<sup>ヲ</sup>

壁代ノ外<sup>へ</sup>出<sup>ト</sup>見<sup>タリ</sup>

雖爾卿阿闍梨本

処<sup>ニ</sup>乍置<sup>一</sup>礼盤東<sup>ニ</sup>

コモヲシキ給也

以齒木供諸仏事

醒醐ハ取<sup>テ</sup>筋<sup>一</sup>枝供諸仏<sup>一</sup>文

口伝云鈴ノ左<sup>ニ</sup>置<sup>之</sup>一<sup>次</sup>

取<sup>一</sup>枝<sup>一</sup>賜受者<sup>一</sup>教

授取<sup>テ</sup>与受者<sup>ニ</sup>口伝

云一度<sup>ニ</sup>取<sup>二</sup>枝<sup>一</sup>加持<sup>シテ</sup>

之<sup>一</sup>一<sup>一</sup>枝献<sup>一</sup>仏<sup>一</sup>一<sup>一</sup>枝与

四十九ウ

受者<sup>一</sup>已上醒醐

今流<sup>ハ</sup>押紙<sup>ニ</sup>見<sup>タリ</sup>唯

一枝<sup>ツ</sup>取<sup>テ</sup>供<sup>シ</sup>仏<sup>ニ</sup>与<sup>ト</sup>

受者<sup>ニ</sup>見<sup>タリ</sup>但供<sup>ル</sup>仏<sup>一</sup>

何ノ処<sup>ニ</sup>置<sup>ク</sup>ト<sup>ス</sup>不<sup>見</sup>可<sup>一</sup>

随便宜<sup>ハ</sup>処<sup>一</sup>歟又口

伝<sup>モ</sup>無<sup>シ</sup>云

次嚼齒木<sup>一</sup>次洗<sup>之</sup>一

次薦<sup>ニ</sup>立<sup>之</sup>

次誓水如文

(以下空白)

書本了

永仁二年九月二十六日

書写<sup>之</sup>云

(以下空白)

五十ウ

五十一才

五十一ウ

③【一三函一一三〇】

〔表紙〕

一交了

金寶鈔聞事

妙鈔聞事

玄秘鈔聞事

灌頂護摩 菩提心論事

仙芥集

〔表紙裏〕

〔空白〕

〔本文〕

√略出經披本經第一卷「初」

須弥山ノ所<sup>ハ</sup>婆羅<sup>ム</sup>吽

釵<sup>文</sup>今鑲也 梵字 van ナルカ

故定有子細<sup>一</sup>歟

√羯磨部座処<sup>ニ</sup>左右想

<sup>パ</sup>短字<sup>一</sup>本經文也短<sup>ト</sup>云<sup>ハ</sup>リ

只<sup>タ</sup>ノ阿字<sup>ナ</sup>ナル<sup>ハ</sup>シ<sup>シ</sup> al<sup>イ</sup>字也

亦有子細歟

√仏眼法大咲印下苾<sup>此ノ字ヨミ</sup>不知<sup>一</sup>

√菩提場経下着輕穀衣<sup>一</sup>

肩<sup>カ</sup>ニ<sup>マ</sup>絡<sup>ト</sup>ニ<sup>ニ</sup>爾<sup>モ</sup>披<sup>ラ</sup>ク

√内云私云石山内供歟

摂眼毒女不知作者可尋之

√八大菩薩曼荼羅 不空ノ訳也

√護摩達摩者有人云護摩<sup>一</sup>

法<sup>ト</sup>云事也

護摩達摩ノ菩薩、并<sup>ニ</sup>大摂<sup>ニ</sup>ハ<sup>文</sup>

護摩達摩ノ菩薩者上<sup>ニ</sup>举<sup>ケ</sup>シ<sup>処</sup>ノ

菩薩也<sup>上</sup>引<sup>ニ</sup>護摩達摩<sup>一</sup>故云

√法将阿闍梨者金剛智也

不空ノ訳ナル故<sup>ニ</sup>指金剛智<sup>一</sup>云

爾<sup>一</sup>也<sup>ト</sup>云

√文殊法印 禅林寺云文

有人云宗叡也 実恵

一才

一ウ

御弟子也

√垂<sup>レ</sup>下<sup>タ</sup>入<sup>ス</sup>五輪五輪者五指也

√叱<sup>シ</sup>洛<sup>ロ</sup>咽<sup>キ</sup>焰<sup>エム</sup>

√五髻印秘印有人云以右

無名指(マヤ)柱左小指面文

又左中柱右頭文是等

皆左<sup>ラ</sup>下<sup>タ</sup>ニシテ先<sup>サ</sup>ッ<sup>ク</sup>ヘ右<sup>ヲ</sup>

上<sup>ニ</sup>スル也

√又用左一置於心一如煩惱

障一者有人云左手ノ掌<sup>ヲ</sup>

開<sup>テ</sup>心<sup>ヲ</sup>ヲホフ也以右一為

釧一者結釧印一也

√謂左手与法勢ノ契

同<sup>ナリ</sup>与法菩薩一同<sup>ト</sup>云事也

覆<sup>ツ</sup>セ<sup>フ</sup>ル<sup>ウ</sup>振<sup>ウ</sup>テ

√風火輪相ヒ合セ<sup>テ</sup>為<sup>シ</sup>テ一ト舒<sup>フ</sup>ト

之一者中指頭指並立ル

ナリ是如<sup>シ</sup>釧印是刀印也

大指ハフシテ押無名指

二ウ

側<sup>ラ</sup>也

√是繼室尼ノ刀印ノ尊

像ナリ可訓一

√七<sup>タ</sup>ヒ念<sup>シ</sup>テ而<sup>モ</sup>三<sup>タ</sup>ヒ召<sup>セ</sup>ヨ之惠

風度一ラモテ想<sup>シ</sup>テ乘<sup>シ</sup>テ獅子

王<sup>一</sup>来降<sup>シ</sup>テ於道場ニ与<sup>ヘ</sup>

願一令<sup>ム</sup>ト満足一可訓

玄秘抄仰云美蓮作也

√第一卷無別子細大旨白表紙也

√八字文殊尚說ク五髻一

上之形像又同彼說文

仰云八字文殊ノ本尊

唯五髻也对五髻文

殊一行八字法云私云

金剛王院三部鈔中

首髻八智尊暉光

十方云

√金輪法七宝事十住

心論第二云写等五宝(マヤ)

三ウ

二オ

三オ

有情所撰珠輪二宝

乃之非情文

√大理趣房事有人云

一乘院大理趣房下常二

申也 小野ノ曼荼羅寺

辺三サル処在歟

√反成如来頂印一々反

成光聚仏頂一文有

人云如来頂印者如来

像ノ頭也、是光聚仏頂

三形也 仏眼ノ三形ハ眼許

画之也上云

√大咲印左拳空風捻

持花印也 左右ノ印對シテ  
向也

金輪王仏頂略念誦

法通一切仏頂并大日

鈿印者皆是合シテ父ノ名也

√覆テ振ル想ハ把ル鈿一也可訓

√為ニ下下外道不ル信仏法一等ノ

令メテ惡心二摧滅セ等一ノ心

中二画瑟置利一上已可訓

第二卷

√最極密羅識法文

仰云故僧正云不知出

処一不知人名一自昔一雖

相伝無本拠一云

白色ハ大日 赤色ハ愛染、

大日愛染不二身云雖

然無本説一云云序

品ハ大日、染愛王品ハ染

愛王品也 大日ハ悲染

愛ハ智也、次阿闍梨

位品ハ金剛サタ、不二ノ阿

サリ也 合上二也 今且一不

二ノ身也云

又仰云世間二両頭ノ愛染

王ト云事アリ 此亦無本説一

相伝云不動ハ月輪愛

四ウ一

五才一

染ハ日輪也晦ノ合宿

際ラ表スル也云

真言ハ相伝云云 hum si ddhi ham man 五ウ」

尊勝法無別事有一

卷儀軌一有ニ卷儀軌一

二卷儀軌中有如法尊

勝ノ法儀式一但無如法言一

亦無種子一大概ノ儀式在

之一範俊僧正ノ如法愛

染王ノ法モ唯尊勝法ノ

儀式作之一云

合掌シアニツノ人指人指者頭指也

第三卷

六字法

觀宿僧都凶ニ大威徳ノ

傍シ si pra sa 文仰云

自昔一不明一事也下云

二行空白

仁王經法

曼荼羅中ニ中台ニ不

動者非但タケノ不動一般

若菩薩不動合セル身ト云

二行空白

第四卷無別事

七星九曜等真言一々

列之一余ノ書籍ハ不爾一

二行空白

妙鈔上

金剛夜叉段二十五輪

者在瑜祇經仰也

故入道殿者仰云宇治ノ

入道殿也

妙鈔中上灌頂卷也伝

法灌頂無別子細秘密

灌頂略之一

妙鈔中下如法尊勝如法愛染

太元後七日等無別子細

摧魔怨敵法仰云転

六才」

六ウ」

七才」

法輪法異名也

√安鎮法者仰云鎮家

法等也云

√奥砂子在別者仰云 dha(ヤ)

法也云

妙鈔下

最勝太子仰云毘沙

門太子也云

已上

(二行空白)

灌頂護摩用金剛界許也

即入具支儀式也

広沢ニ 両部俱用護

摩一又具支者某甲印ニ

具ハ某甲言ノ支分ニ云事

也是ハ印ヲ為シテ面一  
具言ニ義也

又某甲言ニ具ト某甲印ノ

支分ヲ云事是ハ言ヲ為面一  
具言ニ義也

互ニ具之一故云具支也ト云

此即秘密灌頂儀式也

不空渡天竺ニ受龍智一儀

式也延命院ト与ニ金剛王

院一在此式ニ我持之一云

又結縁灌頂ノ式モ持之一云

菩提心論大事

八葉白蓮者或内縛

或外縛シテ臍ノ前ニ置之一也

二大指ノ外八葉也 一肘間

者ハ両ツノ肘ノ内一肘也 炳現

者アキラカナル義也 阿字

者心上ノコノ字也 素光

色者白色也 禅智者或ハ

二大指ト云義アリ 其ハ誤也

両手ヲ云禅智ト定惠

両手ノ故禅智俱入者

クムヲ云也 即是金剛縛

也或内或外俱  
金剛縛也 召入如来

寂靜智者召テ修得ノ如来ノ

七ウ

八ウ

八オ

九オ



智一入本有ノムネノ a 字二

也 修生不二義也 又仰云

菩提心論者 yu ki 經淺

略也 ムキハ用 van 字一此

論ハ用 a 字一各互三用之一

惣相ノ論ノ面ハムキノ淺略

也 又理趣經ノ極秘密等

ムキ經愛染等同也 俱

深秘也下云

又付金剛縛一外縛ハ蓮

花乃上ノ月輪也 理ノ上ノ智

胎藏義也 内縛ハ月輪ノ

内ノ蓮花也 智ノ上ノ理也

金剛界ノ義也 俱用内外

縛一也下云

建治四年二月十日夜記之了

日玄秘抄金宝抄之後

承之書入也 定仙

秘藏金宝集第一

○仁王經法 本尊五大

尊者五仏教令也

不動為本尊者且出淺

略一也 実二ハ不動尊下般

若菩薩下合セル身也

√持十二輻輪断大悲妄

執也 望智一時者以大悲

為妄執一也

五種鈴立様図先出

一種一後亦出一說下云

√又陰陽反同印可尋之

√御加持下無平濁声二本尊等文

無声者微平濁音下云事也

為本尊ヲ秘力也下云

○孔雀經

√紫鐘代用湯黃文

仰云湯黃和シテ用之也

十才

十ウ

私考奇特仏頂経作

拳豎二者二字下脱

火字一輪並豎者一

風輪ト云事也

第二

白衣大白衣仰云唯

同体異名也大里ト与

マタリ神ト云カシ

第三

不空絹索法仰云此

尊ハ此作法ツクル也ト云

√宝樓閣法仰云今次第

書釈迦秘説ニハ胎大日也

第四

林賢者理性院人也ト云

√仁王経法後ノ本ニハ座ス宝蓮ニ

図ニ有兩本一歟

√経台印焼香ノ印ニ似

但経台印ハユヒノタカク

十一才

アカリテニ小開ケタル也云

第五

河臨法者六字法也法

皇ノ御時山法師成賢僧

正行之ニ大鼓ヲ打テ螺ヲ吹也

コトクシキ也七セニシテ

七度行之ニ船ニシテ行フ也東

寺ニハ不行之ニ其故ハ釈王

寺ノ慧什阿闍梨カツラ

河ニシテ行テ之ニアヤマチニ水ニ

落入テ死、仍其後不行之ニ

云

末ノ年号ノ兼意ハ仁和寺

助ノ阿闍梨成蓮也

第六 無別事

第七

大勝金剛ハ第二地仏果位

也愛染王ハ自証極位、

初地因位也真言ハ撰ニ地ニ

十二才

云

十二才

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

云

不立余地<sup>一</sup>以地前地上<sup>一</sup>撰

初二地<sup>二</sup>也

√大勝金剛<sup>ハ</sup>五仏惣名也出<sup>タル</sup>

果<sup>二</sup>形也

√三世及三界者穢土也淨

妙国<sup>ハ</sup>淨土也淨穢両

土<sup>二</sup>無法<sup>一</sup>云

住<sup>シテ</sup>果位<sup>一</sup>施化他門<sup>一</sup>故<sup>二</sup>云無

法<sup>一</sup>也云

√囊求利童女為<sup>二</sup>毒虫<sup>二</sup>被<sup>二</sup>

差<sup>サ</sup>一行也<sup>云</sup>

√觀音聞持仰云此<sup>ハ</sup>唯

名許聞也委<sup>ク</sup>不習<sup>一</sup>静<sup>カニ</sup>

可見<sup>一</sup>云

第八

聖天法仰云夏<sup>ハ</sup>油<sup>ヲ</sup>ア

タ<sup>ハ</sup>メス金剛王院<sup>ニ</sup>夏<sup>ハ</sup>水

歡喜天<sup>トテ</sup>以水<sup>一</sup>浴天<sup>一</sup>也但

初少<sup>シキ</sup>浴十一面<sup>一</sup>其後

十三才

歡喜天也<sup>ト云</sup>尋<sup>二</sup>云冬<sup>ハ</sup>

サムクシテアシクヤ云ヘキ

仰云金剛王院<sup>ニ</sup>行<sup>セムト</sup>思<sup>フ</sup>

人<sup>ハ</sup>冬<sup>モ</sup>行也水歡喜天<sup>ト</sup>

云故不苦<sup>一</sup>也<sup>ト云</sup>

第九

円満金剛仰云三密房

付此法<sup>一</sup>シルシアリ初<sup>タル</sup>処<sup>ニ</sup>テ

授<sup>ケテ</sup>初心人<sup>一</sup>可令行<sup>一</sup>也<sup>ト云</sup>

√滅惡趣<sup>ハ</sup>地藏<sup>ノ</sup>同体異名也<sup>ト云</sup>

√六字文殊<sup>ハ</sup>作法<sup>ハ</sup>同五字<sup>一</sup>也<sup>ト云</sup>

第十

南方主者宝生尊也<sup>ト云</sup>

(一行空白)

建治三年八月七日伝受

同八日夜記之了

(以下空白)

十四才

十四ウ

④【二三函一—三一】

〔表紙〕

なし

〔表紙裏〕

なし

〔本文〕

付不動法記之

不動略次第了大云般若僧正此ハ石山

御作也

不動明王略次第、此モ般若

寺僧正ノ作也末ハ般若寺

僧正作トイヘリ

不動法、末ハ八千枚作法在別

トイヘリ施殘食呪出之一

此次第ハ以朱一委細ニ注口

伝一成賢僧正般若寺ノ

次第ヲヤワラケテ委ク記之一也

一才

口伝等委細ニ記之一取テハ

不動ノ法ニ秘次第也一輒

不授人一

不動法息災調伏トイヘリ

此ハ從遍智院一已前ノ古ルキ

次第也 不委一

(一行空白)

不動略次第文末ハ列ヌ字輪觀一

是ハ古意ノ教上人作也

遍知院ノ次第、記秘藏

事一其ノ次第ヲ輒ク人ニ

不ト授一私作之一也云

已上一了一上人説也

一ウ

薄双紙目錄中云不動

付安 鎮 トイヘリ一了一上人云

各ハ付薄双紙一不見

安鎮次第一然而トモ今

如是一注定メテ有歟

白表紙ニ有リ安鎮次第一其レニ

不<sub>ル</sub>可過<sub>一</sub>也<sub>下云</sub>

已上同人説也

遍知院僧正自筆薄双

紙目<sub>六云</sub>不動<sub>付リ安鎮</sub>

了一上人云付<sub>ケテ</sub>不動法<sub>ニ安鎮</sub>

アリト云事也付<sub>テ</sub>此法<sub>一安</sub>

鎮アリト云事也必<sub>シモ</sub>薄双

紙<sub>ニ</sub>アリト云事<sub>ニハ</sub>非<sub>ス</sub>白

表紙<sub>ニ</sub>在<sub>一</sub>四臂ノ不動

也<sub>云</sub>

(空白)

付胎藏次第<sub>一記之</sub>不審也

次發菩提心次仏性三昧耶戒<sub>上</sub>

醍醐<sub>ニハ</sub>捨此<sub>ニ</sub>用転法<sub>論</sub>

撰金剛<sub>一当ル</sub>發菩提心仏性

三昧耶戒<sub>一歟</sub>勸修寺<sub>ニハ</sub>

胎藏ノ略次第<sub>ニモ</sub>列転法

輪<sub>ト</sub>不動能成就<sub>トヲ</sub>頌

次第<sub>ニモ</sub>如此<sub>一</sub>了上人云広

沢次第如此<sub>一</sub>仍披広沢

手形次第<sub>一如是</sub>勸修寺

本<sub>トハ</sub>広沢ノ流<sub>ナル</sub>故歟

又声明集<sub>ニハ</sub>如<sub>ク</sub>勸修寺<sub>一</sub>

列<sub>一</sub>也

√四智讚ハ金界<sub>ニ</sub>用<sub>一</sub>之<sub>一</sub>胎

藏<sub>ニハ</sub>用心略讚<sub>一</sub>後七日<sub>ニハ</sub>

胎藏ノ心略讚<sub>ニ</sub>加<sub>om</sub>ノ字<sub>ヲ</sub>

也<sub>了上人説也</sub>

√付三部字輪觀<sub>一</sub>醍醐<sub>ノ</sub>

二ウ

印ノ<sub>凶</sub>ニ<sub>ヲ</sub>アケテヲイ

テ<sub>下</sub>行等<sub>ヲ</sub>始<sub>ム</sub>誤

也<sub>a ga</sub>是也<sub>不可用<sub>一</sub></sub>

a<sub>中</sub>置<sub>テ</sub>ka ga 等<sub>ヲ</sub>ソハ

ヨリ可始<sub>ガ</sub>

a<sub>是也</sub>可用<sub>一</sub>

了上人説也私云勸修寺<sub>モ</sub>爾也

√驚發地神ノ時ノコクキ<sub>ノ</sub>事

ハレ<sub>ニ</sub>モ互跪<sub>クキ</sub>也<sub>其ノ</sub>互

三才

三ウ

クキノシヤウ如頸次第<sup>一</sup>

但觸地<sup>ハ</sup>必地<sup>ヲ</sup>三<sup>ト</sup>靜<sup>ニ</sup>

ヲス也阿闍<sup>ノ</sup>觸地<sup>ハ</sup>ヒサヲ

オス也了上人説也

(空白)

大法秘法事

了上人云後七日、伴僧十二人、

行事一人、大阿闍梨一人、

已上十四人也毎年<sup>ノ</sup>為<sup>ル</sup>

行法<sup>一</sup>故伴僧不多<sup>一</sup>唯

役人等<sup>ノ</sup>分許也請雨

經<sup>ノ</sup>法<sup>ハ</sup>希<sup>レ</sup>在<sup>ニ</sup>之<sup>一</sup>伴僧

三十人也五大虚空藏

仁王經孔雀經普賢

延命<sup>ハ</sup>伴僧二十人也

如法愛染如法尊勝<sup>ハ</sup>

秘法也道場不見之<sup>一</sup>

転法輪法<sup>モ</sup>秘法也<sup>云</sup>

(空白)

私云卿阿闍梨云五大虚空

藏、請雨經後七日、兼

秘法<sup>一</sup>大法也孔雀經

仁王經普賢延命尊

勝法大法也如法愛染

如法尊勝<sup>ハ</sup>秘法也

法花法大法也阿性房

口伝兼秘法<sup>一</sup>云

已上日記別在之<sup>一</sup>

又云法輪法大法也<sup>云</sup>

一交了

(裏表紙)

四ウ

五ウ  
六才

⑤【一三函一—三三】

〔表紙〕

なし

五才

〔表紙裏〕

なし

〔本文〕

護摩行事

名香事 曩ツグテ置ク左ノ脇机一名香ノ

護身法後加持香水

前ニ取名香ヲ少シキ入レ闕

伽ニ少シキ焼ク火舎也云

供ニ護摩ニ如是一曼陀

羅供如是一

灌頂ノ護摩、御修法ノ護摩ニハ

不如クセ是一大壇ニ行法ヲハ

修シテ護摩壇ニテハ護摩許

行之一也云

灑淨香水加持事

キリクノ真言并 ram 字ノ

言ノ時ハ逆加持之一 ram

字ノ時ハ順加持之一 脚阿闍梨一説

一云一向順加持之阿性房説

西院ウチノ小補律師 ram 字ハ

逆 ram 字ハ順、兵部卿

法印ハ順逆云

土御門大納言僧都御

房ノ逆順ニ加持ス同也云

了一上人云先逆三反次順

(以上)

一ウ

一才